チキナ B-16
CS14
1811
No1933

日本帝國民法

司法省藏版

明治五年五月印行

司法省
明治・贈呈

瑞士國邊留奴邦民法

○

此書ハ千八百五十六年佛蘭西人アントワーヌ、ド、サンギョゼフ氏ノ原著ヨンコルダンス、アントル、レ、コードシウヴル、エトランゼー、エ、ル、コード、ナポレヨン法（各國民對照）中瑞士國邊留奴邦民法ノ全文ナリ然レトモ其主トスル所佛蘭西民法トノ對比ニ在リ故ニ其條中佛蘭西民法ト全ク異ナラサル者ハ其第何條ニ同シキ旨ヲ記シ之ヲ略スル有リ讀者諒焉

瑞士國邊留奴邦民法

目次

	丁數
前加篇　一般ノ法律	五
第一部　雙方者ノ權利	七
第一卷　人及ヒ總テ血屬親ノ分限	七
第二卷　婚姻	一四
第一款　適法ノ婚姻ニ要スル條件	一六
第二款　婚姻ヲ約スル爲メニ要スル法式	二〇
第三款　婚姻ノ故障及ヒ其無効ノ宣告	二六
第四款　婚姻ノ効	三一
第一節　人ニ付テノ効	三一
第二節　財産ニ付テノ効	三二

第五款　婚姻ヲ解ク事　四三
第三卷　父母ト子ノ權利上ノ關係　五六
第一款　適出ノ子タル事　五六
第二款　私生ノ子タル事　六四
第四卷　後見ノ事　七六
第一章　後見ノ構成　七六
第二章　眞ノ後見　八七
第一款　後見人ヲ設クル事　八七
第二款　後見ノ事務　九四
第三款　後見ノ計算ヲ爲ス事　一〇三
第四款　後見ノ止息　一〇九
第三章　裁判所ヨリ任スル補佐人　一一一
第一款　裁判所ヨリ任スル通常補佐人又ハ裁判所ヨリ任スル婦ノ補佐人　一一一
第二款　裁判所ヨリ任スル非常補佐人　一一二
第四款　邊留奴邦內ニ居住スル外國人ノ後見　一一七
第二部　物　一二一
前加篇　諸物相互ノ關係ノ點ヨリ觀察シタル物ノ本性　一二一
第一篇　物權　一二七
第一卷　占有　一二七
第二卷　所有　一三六
第一款　所有權　一三六

第二款　所有權ヲ得ル事及ヒ之ヲ失フ事　一四七
第三卷　地役　一五九
第四卷　質ノ權利　一六九
第五卷　財産相續ノ權利　一七七
第一款　總則　一七七
第二款　財産相續ノ開始　一八二
第一節　正當ノ相續人　一八二
第二節　一般ナル遺囑贈遺ノ證書及ヒ格段ナル遺囑贈遺ノ證書　一九六
第三節　財産相續ノ順序　二一五
第三款　遺留財産ノ獲得　二二〇
第一節　財産相續ヲ肯スル事及ヒ肯セサル事　二二〇
第二節　財産ノ目錄　二二三
第二篇　人權　二三三
第一卷　一般ノ契約　二三三
第二卷　格段ノ契約　二五二
第一款　贈遺　二五二
第二節　附託　二五六
第三節　耗盡セサル物件ノ貸借　二六〇
第四節　耗盡スヘキ物件ノ貸借　二六二
第五款　仲裁人ノ裁判ニ任カスル契約　二六八
第六款　名代ノ證書及ヒ事務ノ管理　二六八
第七款　賣買　二七四

第八款　賃貸　二八七
第九款　人力ノ賃貸　二九七
第十款　會社ノ契約　三〇三
第十一款　遺物相續ニ關スル契約　三一三
第十二款　保證契約　三一九
第十三款　動產質入ノ契約　三二六
第十四款　義務　三三九
第三卷　犯罪ヨリ生スル損害ヲ償フ事　三四一
第四卷　權利、義務ノ更改及ヒ其消滅　三四六
第一款　更改　三四六
第二款　權利及ヒ義務ノ消滅　三五四
第四款　獲得ス可キ期滿得免及ヒ消滅ス可キ期滿得免　三六五

瑞士國邊留奴邦民法

佛蘭西　アントワーヌ、ド、サンジヨゼフ　著
玉置良造譯

東京圖書館

邊留奴二年法ハ千八百七十四年二月二十三日ニ宣令シ千八百二十六年四月一日ヨリ執行スヘキ者ト成リ即チ人ノ法ヲ包含ス(自第一條至第三百三十一條)

第一部ニ分ツテ公布セシ者ニシテ其第一部ハ千八百四十七年五月二十八日ニ宣令シ千八百二十八年四月一日ヨリ執行ス可キ者ト成リ即チ物權ニ關スル物ノ法ヲ包含ス(自第三百三十二條至第六百七十三條)其第三部ハ千八百三十年三月十八日ニ宣令シ千八百三十一年四月一日ヨリ執行ス可キ者ト成リ即チ人權ニ關スル物ノ法ヲ包含ス(自第六百七十四條至第千四十

四條)蓋シ民法ノ此三部ノ行ハレシ以來改正法ヲ出セシハ其數甚タ僅ニシテ唯裁判所ヨリ任スル補佐人ヲ婦人ニ附スルヿヲ廢スル千八百四十七年五月二十七日ノ法律ヲ以テ緊要ノ者トス

邊留奴ノ民法ハ唯本邦ノ舊キ部分ニ適施ス可キ者ニシテ邊留奴所轄ノジュラー(佛蘭西ト瑞士ノ國境ナル山脈)ハ僅ニ二三ノ條款ヲ除クノ外、佛蘭西法律ニ依テ統理セラル蓋シ千八百二十五年十一月二十八日ノ法律ハ後見ノ事ニ關スル邊留奴民法ノ第一部第四卷ヲ千八百二十六年四月一日ヨリジュラーニ於テ執行ス可キヿヲ布令シ此卷ヲ政府ニ於テ佛文ニ飜譯シ抄出法ノ體裁ニ於テ之ヲ公布シ且其施行ノ布令書(第二條)ヲ以テ幼者、失踪者及ヒ治產禁ヲ受ケシ者ニ關スル拿破崙法典第百十二條乃至第百三十四條第三百八十八條乃至第四百七十五條第四百八十八條乃至第五百十五條第八百三十八條第八百三十九條及ヒ第二千四十五條並ニ佛蘭西訴訟法第五百二十七條乃至第五百四十二條第八百五十九條乃至第八百六十四條第八百八十二條乃至第八百九十七條及ヒ第九百五十四條乃至第九百八十五條ヲ廢止ス可キヿヲ命セリ但シ千八百二十五年十一月二十八日ノ此法律ハ千八百四十年一月一日ヨリ執行ス可キ者ト成リシ千八百三十九年十二月十二日ノ法律ニ依テ廢止セラレ再ヒ佛蘭西法律ヲ施行セシカ此法律ハ吾人ノ既ニ言ヒシ如ク遂ニ邊留奴邦ノ舊キ部分ニ於テ亦採用セラルヽニ至レリ

抑邊留奴邦ハ他邦ニ先シテ其民法編纂ニ從事セシ者ノ一ニ居ルヲ以テ其法典ハ屢他邦ノ模範ト成レリ

前加篇　一般ノ法律

第一條　吾人瑞士共和國及ヒ邊留府ノ大議會ヲ云フノ宣令セントスル一般ノ法律ハ或ハ之ヲ印刷シ或ハ說敎ニ於テ之ヲ朗讀シ或ハ常例ノ場所ニ之ヲ貼附スルニ依テ公ケト爲ス可シ(拿破崙法典第一條參看)

第二條　各法律ニ於テ吾人ハ始メテ之ヲ循守ス可キ日ヲ定ム可シ而シテ之ヲ既往ノ事ニ適施ス可カラス(拿破崙法典第二條參看)

各法律ハ吾人ノ之ヲ廢止シ及ヒ之ヲ更改スルニ至ル迄ハ行ハルヽ者トス

第三條　新法公布ノ後諸舊律ハ吾人ノ再査、批准ヲ經ルニ至ル迄中止セラルヽ者トス然レトモ其舊律ヲ保存セントス欲スル地方ハ吾人ニ其再査、批准ヲ要求シ且批准ヲ經可キ者ヲ印刷ニ付セシム可シ

但シ此特別ノ法律ハ之ヲ設定シタル地ニ居住シ及ヒ其他政權ヲ享

有セサル住民ノミ之ヲ循守ス可シ而シテ此法律ヲ循守ス可キ管轄地外ニ居住シ或ハ其他政權ヲ享有スル住民ハ普通ノ法律ニ從フ可シ

第四條　我民法ハ我權柄(即チ政府)ニ屬スル人及ヒ物ニ之ヲ適施ス可シ

然レ𪜈外國ニ居住スル邊留奴ノ國士及ヒ邊留奴邦內ニ居住スル外國人ハ凡テノ所爲ノ爲メ其身ノ能力ニ付テハ各自其本國ノ法律ニ從フ可キ者トス(拿破崙法典第三條第三節參看)

所爲ノ法式ハ彼等ノ所爲ヲ行フタル國ノ法律ニ從テ裁判ス可キ者トス

第五條　我法律ノ允許スル場合ニ於テ外國ノ法律ヲ引證セント欲スル者ハ其正文ヲ指示シ及ヒ充分ニ其法律ノ現ニ行ハルヽヿヲ證明ス可シ

第六條　或ル外國政府カ二三ノ外國人ニ對シテ苛酷ノ法令ヲ出ス時若シハ我國民カ彼レノ國民ト同等ノ權利ヲ享有セサルヿヲ許ス時ハ我小議會ニ於テハ此弊害ヲ改除センカ爲メ或ル場合ニ於テハ相互ノ法令(即チ苛酷ノ法令ヲ出スヲ云フ)ヲ出スヲ得可シ(拿破崙法典第十一條參看)

第七條　適法ニ宣令シタル法律ハ之ヲ知ラサル旨ヲ裁判所ニ申述スルモ無効ノ者トス

第一部　雙方者ノ權利

第一卷　人及ヒ總テ血屬親ノ分限

第八條　凡テ人(ツツガンム)ハ法律上ニ禁スル所ヲ除クノ外、權利ヲ得及ヒ義務ヲ負フヿヲ得可シ但シ此點ヨリ看ル時ハ人ヲ稱シテ「ペルソンヌ」ト云フ

第九條　人(オンム)ハ生活シ及ヒ生長ス可キ景情ニテ生レシ時ヨリ其死亡ニ

至ル迄一人ナリトス（カヌベルソンヌ）

第十條　然レ𪜈未タ生レサル者モ亦在胎ノ時ヨリ其人權ヲ有ス可シ

但シ彼等ノ生活シ及ヒ生長ス可キ景情ニテ生ル、時ニ限ル者トス

第十一條　民權ノ凡テノ關係ニ於テ生長ス可キ子ハ生活シテ生レタリト思量ス可シ

第十二條　權利ヲ保護センカ爲メニ或人ノ出産及ヒ死亡ヲ引證スル者ハ疑シキ場合ニ於テハ其證ヲ立ツ可シ

第十三條　此證ハ一般ノ規則ニ於テハ法律上ノ定式ニ從ヒ當該官吏ノ所持スル身分證書ノ簿冊ヨリ抄出シテ爲ス可キ者トス

第十四條　但シ前條ニ記シタル方法ニ從ヒ既ニ生存ノ證アル或人ノ出産又ハ死亡ノ證ヲ立ツル能ハサル者ヲ裁判所ニ表明シタル場合ニ限リテハ其時ノ景情ニ從テ充分ナリト思量ス可キ凡テノ他ノ方法ニ因テ證ヲ立ツルヿヲ得可シ

第十五條　我小議會ハ關係各人ノ訟求ニ依リ次ノ三個ノ場合ノ一ニ於テハ失踪人ノ死亡ヲ充分確實ナリトシテ公告スルヲ得可シ然ル時ハ此公告ヨリ生スル法律上ノ効ハ失踪人ノ生存ヲ明證スルニ至ル迄繼續スル者トス

第一　人ノ八十歳ニ達シテ五年以來其生命ノ確實ナル消息ヲ爲サヽル時、但シ此場合ニ於テハ五年ノ期限ノ最終ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト定ム可シ

第二　失踪人ノ年齢如何ヲ問ハス三十年以來消息ヲ得サル時、但シ此場合ニ於テハ三十年ノ期限ノ最終ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト定ム可シ（拿破崙法典第百二十九條參看）

第三　此人非常ノ危難ニ罹リテ五年以來其消息ヲ爲サヽリシ時、但

シ此場合ニ於テハ彼レ既ニ危難ノ日ニ死亡シタル者ト看做サル可シ

第十六條　何人タルヲ問ハス已レノ權利ヲ行ハンカ爲メ他人ノ代理又ハ立會ヲ要セサル時ハ已レノ民權ヲ享有ス可シ

第十七條　政權ヲ行フ事ハ公ケノ職務ヲ行ヒ及ヒ裁判所ニ於テ證人トナルノ權利内ニ存在ス而シテ此權利ハ裁判言渡ニ依テ之ヲ剝奪セラレサル凡テノ人ニ屬スル者トス

但シ政權ヲ行フ事ハ政權剝奪ノ重罪ヲ犯シタリト告訴セラレタル人ノ爲メニハ其放免ノ日ニ至ル迄之ヲ停止シ、後見ヲ免レサル丁年者又ハ治產禁ヲ受ケシ者ノ爲メニハ其後見ヲ免ルヽニ至ル迄又ハ家資分散ヲ爲シタル者ノ爲メニハ治產禁ヲ除クニ至ル迄之ヲ停止シ及ヒ民事ノ禁錮ニ處セラレタル者ノ爲メニハ倒產又ハ禁錮ヲ廢止スルニ至ル迄之ヲ停止ス可シ

第十八條　人各〻自己ノ權利ヲ享有スルニ付キ自身ヲ保護センカ爲メ政府ノ援助ヲ請求スルヲ得可シ但シ獨斷ヲ以テ自身ニ裁判ヲ爲スヲ得ス又其身ノ保護ハ唯其緊要ナル丈ニ非サレハ許サレサル者トス

第十九條　數人血統ヲ共ニスル時其相互ノ關係ヲ稱シテ血屬親ト云ヒ亦夫婦ノ一方ト其配偶者ノ血屬親トノ關係ヲ稱シテ姻屬親ト云フ

第二十條　若シ血屬親ノ父若クハ母ノミヲ同フスル時ハ是レ乃チ異父ヲ異ニシ又ハ母ヲ異ニスルノ義（リイヂツ）ノ血屬親即チ唯一方ノミノ血屬親ナリトス

第二十一條　血統ノ級ハ或人其宗系ノ他人ト血統ヲ同フシ又ハ傍系ノ二人其所出ノ同シキニ因リ血統ヲ同フスル代ノ數ニ從テ算計ス

可シ而シテ其一代ヲ以テ一級ト爲ス故ニ父ト子トハ第一級トシ兄弟ハ第二級トシ伯叔父ト甥トハ第三級トス(拿破崙法典第七百三十五條及ヒ第七百三十六條參看)

第二十二條　一方ノミノ血屬親ハ両方ノ血屬親ヨリ一級下ル者トス

第二十三條　夫婦ノ一方ノ血屬親ハ其配偶者ノ姻屬親ニシテ同系及ヒ同級ノ者トス

第二十四條　法律上或人ノ血屬親ニ一ノ所爲ニ付テ或人ヲ許諾シ若シハ之ヲ監督スルノ權ヲ與フル總テノ場合ニ於テ若シ別段ノ解明在ラサル時ハ此血屬親ナル言詞中ニ傍系ノ尊屬親ノ第四級ニ至ル迄一切包含シテ男性即チ夫ノ父方並ニ母方ノ血屬親ヲ含ムヿヲ理會ス可シ但シ或人カ此級ノ血屬親ノ充分ナル數ヲ有セサル時ハ第四級ニ至ル迄姻屬親ヲ以テ之ヲ補フヿヲ得可シ

此等ノ血屬親ハ吾人ノ國内ニ居住シテ其民權(第十六條參看)及ヒ政權(第十七條參看)ヲ享有ス可シ

第二十五條　若シ法律上許諾ヲ與フルカ爲メ必要ナル血屬親ノ數ヲ定メサル時ハ最親近ノ血屬親五名ヲ呼フ可シ而シテ若シ最親近ノ血屬親五名ヨリ多數ナル時ハ最高年ノ者五名ヲ呼フ可シ但シ許諾ハ投言(ボアー)ノ多數ニ從テ與フル者トス然レトモ若シ或人ノ血屬親ニ能力者唯一三名在ル時ハ此血屬親ノ與フル許諾ハ皆同意ニテ之ヲ言出ス時ハ適法ナリトス

若シ或人能力アル血屬親ノ充分ナル數ヲ有セサル時ハ後見管理人其代理ヲ爲ス可シ然レトモ後見管理人ハ血屬親ト共ニ事ヲ行フ可キ場合ニ於テハ其代理ヲ爲スヲ得ス(第百三條及ヒ第二百十六條等參看)但シ斯ノ如キ時ニ於テハ血屬親ノ親族會議ニ與フサル場合ニ關

スル定規ヲ遵守ス可シ

第二十六條　自己ノ民權ヲ享有セサル人ハ凡テ其夫其父母又ハ後見人ノ保護ヲ受ク可シ

第二十七條　目的ノ有益ニシテ吾人ノ保護スル所ノ邑及ヒ會社ハ政府ノ監督ヲ受クル無形人ニシテ權ヲ得及ヒ義務ヲ負フヿヲ得可シ

第二十八條　政府ノ法律ニ服從スル人ヲ指シテ臣（シユセー）ト云ヒ邦境（カントン）内ニ於テ國士ト認メラレタル者ヲ指シテ國士ト云ヒ民事會社ノ一ニモ屬セサル者ヲ指シテ外國人ト云フ

第二卷　婚姻（混合婚姻ニ關スル瑞士聯邦法〇千八百五十年十二月二日）

第一條　何レノ邦ニ於テモ夫婦ノ奉スル耶蘇宗門ノ相異ナルカ爲メ婚姻ノ執行ヲ禁スルヿヲ得ス

第二條　混合婚姻ノ公告ハ僧官又ハ俗官ノ之ヲ命シタル時行フ者トス

第三條　婚姻ニ付キ法律上ノ故障在ラサル時ハ婚姻ヲ執行スルノ允許ハ僧官又ハ俗官ヨリ之ヲ與フ可キ者トス

第四條　若シ夫ノ生レタル邦ノ法律ニ於テ婚姻ヲ爲スニ付キ宗門上ノ儀式ヲ行フヿヲ命スル時ハ夫婦ハ該邦内又ハ該邦外ニ於テ公認セラレタル耶蘇宗門一派ノ僧一名ヲシテ婚姻ヲ祝セシムルヿヲ得可シ

第五條　混合婚姻ヲ公告シ又ハ執行スルノ允許ハ其他ノ婚姻ノ從ハサル要件ニ依循ス可カラス

第六條　父ハ其混合婚姻ヨリ生レタル子ヲ如何ナル宗門ニ於テ教育ス可キカヲ決定ス可シ若シ父ノ其生存中毫モ此權ヲ用ヒサリシ乎

又ハ二三ノ理由ニ因リ父權ヲ行フヲ許サレサル時ハ其決定ヲ爲スハ乃チ此權力ヲ有スル人又ハ官廳ナリトス

第七條　混合婚姻ヲ執行スルニ因リ夫婦子又ハ凡テ其他ノ人ニ對シ權利上ノ損害ヲ生ス可カラス

第八條　此聯邦法ニ反對スル邊留奴法ノ條目ハ廢棄セラレタリ

第九條　聯邦議會ハ本法ノ執行ヲ擔任セリ但シ本法ハ直ニ實行ス可キ者トス

第一款　適法ノ婚姻ニ要スル條件

第二十九條　婚姻ヲ爲スニハ男ハ滿十八歲及ヒ女ハ滿十六歲ニ至リタルヲ要ス(拿破崙法典第百四十四條參看)

第三十條　夫婦ノ承諾ハ婚姻ノ効アル爲メニ必要ノ者トス(第七十八條○拿破崙法典第百四十六條參看)

第三十一條　瘋癲人及ヒ狂暴人ハ決シテ婚姻ヲ爲スヲ得ス又愚人盲人及ヒ啞聾人ハ婚姻裁判所ノ允許ヲ受ケタル上ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

第三十二條　私權ヲ享有セサル未丁年者及ヒ後見又ハ治産禁ヲ受クル丁年者ハ其父母若クハ其祖父母ノ許諾ヲ得スシテ婚姻ヲ爲スヲ得ス(第六十四條及ヒ次條○拿破崙法典第百四十八條參看)

第三十三條　父母ノ許諾ヲ受クレハ祖父母ノ許諾ヲ受クルニ及ハス父方ノ祖父母ノ許諾ヲ受クレハ母方ノ祖父母ノ許諾ヲ受クルニ及ハス而シテ父又ハ祖父ノ許諾ヲ受クレハ母又ハ祖母ノ許諾ヲ受クルニ及ハス

第三十四條　許嫁ノ爲メ與ヘタル許諾ハ之ヲ與ヘタル人ノ死去シ又ハ其身分ヲ變更シタル時ト雖モ婚姻ヲ施行スルニ充分ナリトス

第三十五條　第三十二條ニ記シタル人ノ一人父母無ク又ハ祖父母無キ時或ハ彼等ガ無能力者ナル時ハ後見人ノ許諾ヲ得可シ但シ後見人ハ後見管理人ナシテ許諾ヲ與フルヿヲ允許セシム可キ者トス（第二百五十七條參看）

第三十六條　未丁年ナル私生子及ヒ邑ノ救助ヲ受クル者及ヒ未タ自己ノ受クシ施濟（ボドコン）ヲ返還セサル者又ハ其子ノ適出タルト私生タルトヲ問ハス邑ノ救助ヲ受クル者ハ邑ノ允許ヲ得スシテ婚姻ヲ爲スヿヲ得ス

第三十七條　父母、祖父母、後見人又ハ邑ノ、故障ヲ述ヘサル時ハ其許諾ヲ爲シタル者ト思量ス可シ（第六十五條參看）

第三十八條　外國人ハ小議會ノ允許ヲ受クサル可カラス

第三十九條　後見人及ヒ其子孫、姉妹、兄弟及ヒ甥姪モ亦後見ヲ受クル

者ト婚姻ヲ爲スニハ小議會ノ許諾ヲ受クサル可カラス

第四十條　「トナンシエー」邑住民「トナンシエー」邑無キハ如何ナル者タリト雖モ「トナンシエー」局ノ允許ヲ得スシテ婚姻ヲ爲スヿヲ得ス

第四十一條　拿破崙法典第百四十七條ニ同シ

第四十二條　姦淫ヲ爲シタル雙方ハ決シテ相結婚スルヿヲ得ス（拿破崙法典第二百九十八條參看）

第四十三條　夫婦ノ一方ヨリ其配偶者ト疑シキ交接ヲ爲シタルカ爲メ告訴セラレタル人ハ婚姻裁判所ニ於テ其配偶者ト交接スルヿヲ禁止セラレタル時ハ決シテ其配偶者ト婚姻ヲ爲スヿヲ得ス

第四十四條　婚姻ハ血統ノ適法タルト不適法タルトヲ問ハス尊屬親ト卑屬親トノ間、同父母又ハ異父母ノ兄弟ト姉妹トノ間、伯叔父ト姪トノ間、伯叔母ト甥トノ間ニ行フヿヲ禁ス（拿破崙法典第百六十一條

乃至第百六十三條參看)

第四十五條　婚姻ハ亦夫ト死去シ又ハ分居シタル婦ノ血屬親即チ前條ニ記シタル級ノ血屬親トノ間ニ行フヲ禁ス而シテ婦モ亦死去シ又ハ分居シタル夫ノ血屬親ト婚姻ヲ行フヲ禁ス

第四十六條　婦ハ忌服ノ終リシヨリ一年ヲ經ルニ非サレハ再婚ヲ爲スヲ得ス而シテ離婚シタル配偶者ハ裁判言渡ニ因テ定メタル期限ノ終リタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スヲ得ス(第百二十條第一項○拿破崙法典第二百二十八條ト相違ナリ)

第二款　婚姻ヲ約スル爲メニ要スル法式

第四十七條　婚姻ノ豫約ハ貞節及ヒ名譽ノ法ニ循ヒ之ヲ爲ス可シ然レ𪜈更ニ權利ヲ生セサル者トス

第四十八條　若シ許婚者雙方カ公認人及ヒ證人ノ面前ニ於テ許婚女ノ父又ハ後見人ノ立會ヲ受ケタル婚姻ノ契約書ニ姓名ヲ手署シタル時又ハ法律上ニ於テ故障(第六十四條參看)ヲ述フルヿヲ許サレタル人ノ許諾ヲ以テ許婚シタル雙方ノ承諾アリテヨリ既ニ一回又ハ數回婚姻ヲ公告シタル時ハ婚姻裁判所ハ許婚者中一方ノ願ニ因リ充分ノ理由無シシテ結婚ニ故障ヲ述フル所ノ許婚男ヲ損害ノ賠償ニ處斷セサル可カラス且又許婚男ニ惡意ノ在ルヿ分明ナルカ若クハ其拒絶ノ道義ヲ害スルニ於テハ其許婚男ヲ四日以上二十日以下ノ禁錮ニ處スルヿヲ得可シ

第四十九條　此賠償ノ額ヲ定ムル爲メニ婚姻裁判所ハ雙方中一方ノ拒絶シタル理由ト他ノ一方ノ受クル損失トヲ考察セサル可カラス

第五十條　許婚者中一方ノ爲シタル拒絶ニ正當ノ理由アルヤ否ヤヲ知ルノ問題ニ付キ又ハ賠償ノ定方ニ付キ他ノ一方ハ婚姻裁判所ノ

判決ニ對シ控訴スルヿヲ得可シ

第五十一條　何レノ婚姻タリト雖モ許婚者雙方ノ住スル地ノ寺院ニ於テ拜神ノ後引續キ三度ノ日曜日ニ三度ノ公告ヲ爲シタル後ニ非サレハ契約スルヿヲ得ス(拿破崙法典第六十三條參看)

若シ夫婦中ノ一方現今ノ住所ニ八十日間定居セサル時ハ從前ノ住所ニ於テモ亦婚姻ノ公告ヲ爲ス可シ(拿破崙法典第百六十七條ト相異ナリ)

第五十二條　法教師ハ常ニ婚姻公告ノ前ニ左ノ條件ヲ證明セシメサル可カラス

第一　夫婦ノ承諾

第二　其年齡(第二十九條參看)及ヒ其聖餐禮ヲ許サレタル事

第三　外國人又ハ借地人ニ關スル時必要ナル許可(第三十八條及ヒ第四十條參看)

第四　雙方中ノ一方既ニ婚姻セシ時ハ其配偶者ノ死去シタルカ又ハ離婚ニ因テ從前ノ婚姻ノ消滅シタル事及ヒ忌服ノ年限又ハ裁判所ヨリ定メタル時間ノ經過シタル事(第四十六條參看)

第五　警察令及ヒ軍人ニ關スル時ハ軍令ノ婚姻公告前ニ要スル法式ヲ行フ事(拿破崙法典第七十六條參看)

第五十三條　第四十一條乃至第四十六條ニ記シタル婚姻ノ故障ノ一ヲ知ル民政官及ヒ僧官ハ婚姻ノ公告ヲ爲ス法教師ニ之ヲ報知セサル可カラス

第五十四條　邑ハ第三十九條ニ記シタル故障ノ場合ニ於テハ法教師ニ其意見ヲ述ヘサル可カラス

第五十五條　前二條ノ場合ニ於テ法教師ハ此等ノ告知ヲ婚姻裁判所

第四十條參看)

ニ通知セサル可カラス而シテ公告ヲ繼續スル前若クハ公告ヲ爲シタル證券ヲ交付スル前ニ其裁判所ノ決議ヲ待タサル可カラス

第五十六條　婚姻公告ノ證券ハ其公告ノ最終ノ日曜日ニ引續ク木曜日ノ前ニ夫婦ト爲ラントスル雙方ニ決シテ之ヲ交付ス可カラス

第五十七條　神前ニ於テノ婚儀ハ最終ノ公告ヨリ八十日內ニ之ヲ行フ可カラス若シ之ヲ行フニ於テハ新ニ公告ヲ爲サヽル可カラス

第五十八條　婚姻ハ神前ニ於テ婚儀ヲ行フニ因リ成就ス可シ但シ其婚儀ハ寺院ニ於テ少ナクモ證人二人ノ面前ニ於テ我國ノ僧官公ケニ之ヲ爲サヽル可カラス

第五十九條　神前ニ於テ婚儀ヲ行フ前ニ法教師ハ公告ノ在リタル事及ヒ警察令並ニ軍令ニ循據シタル事ヲ明證セサル可カラス

第六十條　神前ニ於テ婚儀ヲ行フタル地ノ法教師ハ直ニ身分證書ノ

簿冊(即チ婚姻ノ簿冊)ニ其旨ヲ記載シ且婚姻シタル雙方ニ婚姻ノ證書ヲ交付セサル可カラス若シ其夫ノ我國ノ他邑ニ居住スル時ハ婚儀ヲ行フタル法教師ハ其邑ノ法教師ニ報知ヲ爲サヽル可カラス

第六十一條　出產證書及ヒ死去證書ノ第十三條及ヒ第十四條ニ記シタル所ノ者ハ亦婚姻ノ證據ニ適用ス可シ

第六十二條　若シ雙方ノ奉スル宗教ノ相異ナル時ハ夫ノ奉スル宗教ノ僧官婚儀ヲ行フ可シ然レトモ若シ夫婦ノ招キタル僧官ノ之ヲ拒絕スル時ハ婚姻裁判所ハ雙方ノ訟求ニ因テ二個ノ宗教中ノ一ノ僧官ニ婚儀ヲ行ハシムルヿヲ命セサル可カラス

第六十三條　法教師ノ其職務ヲ行フニ當リ本款ノ規則ニ背戾スル時ハ辨明ヲ爲ス爲メニ我カ小議會ニ呼出ヲ受ケサル可カラス然レトモ若シ其訊問ヨリ或ル欺僞ノ發覺スル時ハ其事件ヲ管轄裁判官ニ送

付ス可シ

第三款　婚姻ノ故障及ヒ其無効ノ宣告

第六十四條　左ノ各人ハ婚姻ノ執行ニ故障ヲ述フルノ權利アリ

第一　第三十一條ニ記載シタル人ニ關スル時ハ此等ノ人ノ血屬親及ヒ此等ノ人ノ屬スル邑

第二　官廳及ヒ第三十二條乃至第四十條ニ因リ承諾ヲ必要トスル所ノ人、但シ第三十二條ニ記載シタル各人ノ中ニテ其承諾アレハ他ノ承諾ヲ無益ト爲サシムル所ノ者而已故障ヲ述フルヿヲ得可シ(拿破崙法典第百七十三條)

第六十五條　故障ハ婚姻公告ヲ停止シ公告ノ證劵ヲ渡サシメサル爲メ及ヒ神前ニ於テ婚儀ヲ行ハシメサル爲メ夫婦中一方ノ住スル地ノ法教師ニ渡ス所ノ願書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第六十六條　此願書ニハ故障ノ理由ヲ記セサル可カラス而シテ之ヲ二通ニ認メ僧侶裁判所ノ使吏ヨリ法教師ニ差出ス可シ

第六十七條　法教師ハ右ノ願書ヲ受取リ婚姻公告ヲ停止スルカ爲メ婚姻公告ヲ爲ス可キ他ノ法教師ニ其願書ノ報知ヲ爲シ且其一通ハ婚姻裁判所ニ送付シ他ノ一通ハ夫婦雙方ノ要ムル時之ヲ送付セサル可カラス

第六十八條　婚姻裁判所ハ夫婦及ヒ故障者ヲ呼出シ故障ノ効アリヤ否ヤニ付キ簡短ナル訴訟手續ヲ爲シタル後直ニ宣告ヲ爲ス可シ

第六十九條　父母又ハ祖父ノ其子若クハ其孫ノ幼年タルノ原由ヲ以テ述ヘタル故障(第三十二條及ヒ第三十三條參看)ハ本人ノ幼年ナル證據ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス

第七十條　第三十六條ノ場合ニ於テ邑ノ爲シタル故障ハ法律ニ掲ク

ル場合ノ證據ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス

第七十一條　凡テ其他邑、父母若クハ後見人ノ爲シタル故障ノ場合ニ於テハ故障者ハ其理由ヲ裁判所ニ説明セサル可カラス

第七十二條　故障ノ費用ハ故障者ノ擔任ナリトス但シ第三十八條第三十九條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ故障ニ正當ノ理由有リタル時故障ヲ受ケタル者カ其費用ヲ償フハ格別ナリトス

第七十三條　婚姻裁判所ニ於テ公ケノ安寧ノ障碍タルヿヲ知ル時(第四十一條乃至第四十六條參看)ハ之ヲ調査シ且職權ヲ以テ之ヲ審判セサル可カラス

第七十四條　婚姻裁判所ハ既ニ決定スル婚姻ニ無効タル原由有ルヿヲ知ル時ハ亦職權ヲ以テ前條ノ如キ手續ヲ爲サヽル可カラス(第四十一條乃至第四十五條參看)而シテ調査ノ後婚姻ニ効アリヤ否ヤヲ

宣告ス可シ

第七十五條　前二條ノ場合ニ於テハ婚姻裁判所ノ判決ヲ控訴院ニ送付シ控訴院ハ夫婦カ禁婚ノ法ヲ犯スノ罪アリト認ムル時ハ其夫婦ニ對シ判決ヲ爲ス可シ

第七十六條　若シ婚姻ノ時無効ノ原由ノ夫婦ニ知レサル時ハ無効ノ宣告ハ夫婦及ヒ婚姻ヨリ生レタル子ニ對シ離婚ノ効ヲ生シ而シテ夫婦ハ再ヒ婚姻スルヿヲ得ス(第百四十一條參看)

第七十七條　若シ夫婦ノ一方無効ノ原由アルヿヲ知ラサル時ハ無効ノ宣告ハ唯其一方及ヒ婚姻ヨリ生レタル時ニ對シ離婚ノ効ヲ生ス可シ(拿破崙法典第二百三條參看)

第七十八條　若シ數子中ノ一人承諾無キニ因リ婚姻ヲ攻擊セント欲スル時(第六十條參看)ハ婚姻障碍ノ止ミタル時ヨリ二箇月内ニ其住

スル地ノ僧侶裁判所ニ他ノ配偶者ヲ呼出サヽル可カラス

第七十九條　邊留奴人ノ外國ニ於テ爲シタル婚姻ハ正當婚姻ノ効ヲ生スル爲メ我國ニ於テ婚姻裁判所之ヲ確定セサル可カラス但シ此確定ハ之ヲ既住ニ及ス可シ

第八十條　若シ外國ニ於テ爲シタル婚姻ノ塲合ニ於テ第五十一條ニ循ヒ三回ノ公告ヲ爲サヽル時ハ婚姻確定ノ前一回ノ公告ヲ爲ス可シ

第八十一條　當然控訴院ニ上訴シ得可カラサル故障ト無効トノ塲合ニ付キ言渡シタル婚姻裁判所ノ判決ハ之ヲ控訴スルヲ得可シ(第七十五條參看)又外國ニ於テ爲シタル婚姻ノ確定ヲ拒絶シタルト本邦ニ定ムル規則ヲ犯スニ付キ言渡サレタル百「フラン」ヲ超ユル罰金若クハ二十日ヲ超ユル禁錮ノ刑トニ付テハ控訴スルヿヲ得可シ

第四款　婚姻ノ効

第一節　人ニ付テノ効

第八十二條　拿破崙法典第二百十二條ニ同シ

第八十三條　夫ハ一家ノ長ト成リ己レノ傍ニ婦ヲ置キ之ヲ保護シ其地位ト財産トニ應シ之ヲ養ヒ且裁判所ニ於テ其代理ヲ爲サヽル可カラス(拿破崙法典第二百十四條及ヒ第二百十五條參看)

第八十四條　婦ハ其夫ノ姓ヲ名乘リ其夫ノ位置ト財産トヲ有シ夫ヲ補助シ夫ノ命令ヲ施行シ又ハ他ナシテ之ヲ施行セシメサル可カラス

第八十五條　婦ハ凡テノ讓與及ヒ獲得ヲ爲スニ付キ其夫ノ許可ヲ得サル可カラス(第九十條及ヒ拿破崙法典第二百十七條參看)

第八十六條　夫ハ第八十二條乃至第八十五條ニ於テ保證スル所ノ權利ヲ拋棄スルヲ得ス

第八十七條　凡テ夫婦雙方ノ承諾ヲ以テ離婚ヲ爲スヲ禁ス

第二節　財産ニ付テノ効

第八十八條　婚姻ヲ行フ時婦ニ屬スル財産又ハ婦ノ嫁資若クハ婚姻中婦ノ得タル財産ハ夫ノ所有ト成ル可シ但シ婦ニ貯留シタル財産ハ此限ニ非ス(第九條參看)而シテ婦ハ婚姻ノ時婦ニ屬スル負債竝ニ婦ノ何時ニ持參シタルヲ問ハス其持參シタル財産ノ負荷スル負債ヲ拂ハサル可カラス又夫ハ負債ノ部分ヲ除去シ此等ノ財産ノ價直ヲ拂フ可シ

第八十九條　婦ニ與フル所ノ價直ハ之ヲ名ケテ加入ト云ヒ又後條ニ循ヒ婦ノ自由ニ管理スルヲ得ル財産ハ之ヲ名ケテ婦ノ貯留財産ト云フ

第九十條　婦ノ貯留財産ハ左ノ物品ヲ包含ス

第一　衣服裝飾物及ヒ特ニ婦ノ用ニ供スル什具

第二　婦ノ一身ノ使用ノ爲メニ夫ヨリ給與スル金額但シ此金額ハ拂期限ノ經過シ若クハ與ニ拂ハレタルヿヲ要ス

第三　婚姻前ニ夫ヨリ其婦ニ約束シ若クハ給與シタル婚姻ノ贈物

第四　三等若クハ一等ヲ隔ツル傍系親又ハ他人ヨリ婦ニ爲シタル生存中ノ贈與但シ此贈與ハ貯留財産ノ部分ヲ爲スヲ要ス

第九十一條　婦ハ其貯留財産ヲ自由ニ管理シ節儉ヲ爲シテ其元資ヲ增加スルヲ得而シテ夫ノ債主ハ貯留財産ニ毫モ其權利ヲ有セス夫モ亦貯留財産ノ負荷スル負債ヲ消却スルニ及ハス

第九十二條　貯留財産ヲ抵當ト爲シ或ル物品ヲ夫ニ貸與シタル者ハ此財産ノ額ニ至ル迄婦ニ對シテ訴訟ヲ爲スヲ得但シ必要ノ衣類ハ此限ニ非ス

第九十三條　凡テ第八十八條乃至第九十二條ニ背戻スル契約ハ無効

ナリトス

第九十四條　婚姻ノ始メ又ハ何レノ時タルヲ問ハス婦ノ夫ニ持參シタル財産ハ鑑定人之ヲ評價シテ目錄中ニ詳記セサル可カラス而シテ其目錄中ニハ婚姻ノ時婦ノ負債及ヒ何レノ時タルヲ問ハス婦ノ夫ニ持參シタル財産ノ負荷スル負債ヲ記載ス可シ

第九十五條　此目錄ハ二通ト爲シ夫ハ目錄中ニ記スル有價物ヲ受取リタル旨ヲ各通ニ認メ之ニ其姓名ヲ手署セサル可カラス

第九十六條　婦ハ評價及ヒ目錄ヲ爲スニ付キ其父若クハ其補佐人及ヒ父母ト共ニ之ヲ爲サヽル可カラス若シ婦ニ能力有ル父母無キ時ハ補佐人ハ後見管理者ノ一人ノ立會ヲ受ケサル可カラス

本條ハ裁判所ヨリ任スル婦ノ補佐人ヲ廢スル千八百四十七年五月二十七日ノ法律第二條ニ因リ廢棄セラレタリ

邊留奴邦ノ舊領ニ於テ裁判所ヨリ任スル通常補佐人ノ制ヲ廢スル千八百四十七年五月二十七日ノ法律

千八百三十九年十二月十二日ノ法律ハ邊留奴邦所轄ノジュヲニニ於テ既ニ此制ヲ廢シタリキ

第一條　父又ハ管理人ノ監督ヲ受ケサル未婚ノ丁年女ノ有ス可キ裁判所ヨリ任セラルヽ通常補佐人ニ關スル邊留奴民法第二百十一條及ヒ第三百三條乃至第三百十二條ノ法則ハ之ヲ廢ス(第二百十三條及ヒ第二百三十二條參看)

第二條　右法典第九十六條第九十七條第九十九條第百條第百一條第百二條第百三條第百五條第百六條及ヒ第百二十四條ハ左ノ如ク改ム

此等ノ條ニ記スル場合ニ於テ婚姻シタル女ハ父、裁判所ヨリ

任セラレル補佐人、父母、後見人又ハ後見人中ノ一人ノ補助ヲ要セサル可シ

第三條　邊留奴民法第五百五十五條第五百五十六條第五百六十三條第五百六十四條ハ之ヲ廢ス

遺囑證書ノ式ニ付テハ女ハ男ト同一ノ條件ニ從フ可シ(第五百五十七條第五百六十二條及ヒ第五百六十五條乃至第五百七十一條迄參看)

第四條　邊留奴民法第九百一條及ヒ第九百三十六條竝ニ書入質ニ係ル千八百四十六年九月十二日ノ法律第十條及ヒ下等裁判所ヲ廢スル千八百四十六年十二月二十四日ノ法律第十條ノ場合ニ於テ裁判所ヨリ任スル補佐人、父母、後見人ノ補助ハ婚姻シタル女ニ付テハ必要ナラサル可シ

第五條　第五百二十三條及ヒ第五百二十五條ノ場合ニ於テ夫ノ其權ニテ管理スル子ヲ遺シ死去スル時又ハ其管理ヲ免レタル子ノ目錄相續ヲ希望スル時ハ目錄相續ハ請求セラレサル可カラス(第六百三十三條及ヒ第六百四十四條以下參看)

第一ノ場合ニ於テハ特ニ事情ノ父ノ管理スル子ニ利ナル時ハ生邑ノ保護官目錄相續ヲ抛棄スルヲ得可シ然レトモ其時ハ夫ノ死去シタルヨリ四十日內ニ保護官ノ立會ヲ以テ公證人ノ面前ニ於テ父方母方ノ財產及ヒ負債ノ精密ナル目錄ヲ作ル可シ但シ保護官ハ此法式ノ遺漏ヨリ生スル損害ノ責ニ任ス可シ

第六條　父方母方ノ財產ヲ分派スルニ至ル迄寡婦ハ其權下ニ非サル子ノ承諾又ハ生邑ノ保護官ノ承諾無クシテ財產ニ重

大ナル變更ヲ爲スヲ得ス

凡テ此承諾無シ財產ノ元資ヲ著シク變更又ハ減少シタル寡婦ノ所爲ハ無効タル可シ

分派ヲ終ルニ至ル迄ハ寡婦ニ全タ保證人ト成ルヲ禁ス

第七條　裁判所ヨリ任スル婦ノ通常補佐人ノ職務ハ此法律ヲ施行スル日ヨリ止息ス可シ然レ𪜈裁判所ヨリ任スル補佐人ハ其職務ノ終ル日迄幼者ノ財產ノ景況竝ニ其管理ニ付テ邊留奴民法第三百十二條ニ於テ要スル報告書ヲ保護官ニ差出サヽル可カラス

第八條　此法律ハ千八百四十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス可シ而シテ二國ノ語ヲ以テ之ヲ印行シ慣用スル法式ニ從テ之ヲ公布シ法律及ヒ官令新紙ニ之ヲ登載ス可シ

第九十七條　婦ノ父又ハ補佐人ハ夫ノ領收證ノ効アルヤ否ヤヲ確認セサル可カラス而シテ後之ヲ大法官ニ差出シ大法官ハ其領收證ヲ調査シ日附ヲ記シ印ヲ捺シ書記官ヲシテ之ヲ簿册ニ記載セシム可シ但シ其寫ノ一ヲ婦ニ與ヘ他ノ一ヲ夫ニ渡ス可シ

千八百二十一年ノ訴訟法ノ實行セラレシ時民事裁判ハ大法官地方裁判所及ヒ控訴院之ヲ爲シタリシカ千八百四十七年ノ訴訟法ヲ以テ此構制ヲ變更シタリ（第二條參看）即チ治安裁判官、裁判所長、縣裁判所、控訴院及ヒ大審院審判ヲ爲ス是ナリ但シ此審判ヲ爲スハ凡テ我等ノ論題中ニ在テサル管轄ノ規則ニ從フ蓋シ此規則ハ千八百四十七年ノ訴訟法ニ讓ル者トス

千八百四十七年ノ法律第二條參看

第九十八條　婦ノ加入スル財產ノ評價ハ此方法ヲ以テ變ス可カラサ

ル者タリ但シ夫カ其過失無ク財産ノ一部ヲ奪取セラレタルヿヲ充分ニ證明シタル時若シハ婦又ハ其財産ノ負荷スル負債ヲ陳述セサリシ時ハ此限ニ非ス此場合ニ於テハ領收證ノ中ヨリ奪取セラレタル財産ノ價直若シハ夫ニ陳述セサリシ負債ノ全部ヲ扣除セサル可カラス

第九十九條　身代限ヲ爲シタル夫ノ財産ノ上ニ婦ノ有スル先取特權ハ債主ノ順序ニ從ヒ之ヲ記ス可シ此特權ハ夫ノ渡シタル領收證ノ日附以來其財産ノ各部分ニ在ル者トス但シ夫婦及ヒ其父又ハ補佐人ハ訴訟關係人ノ求メニ應シ領收證ニ記スル財産ハ眞ニ之ヲ加入シタルヿヲ證セサル可カラス

千八百四十七年ノ法律條第二條ヲ看ル可シ

第百條　婦ハ父母ノ許諾又ハ父母無キ時ハ後見管理人ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ其特權ヲ抛棄スルヲ得ス

千八百四十七年ノ法律第二條ヲ看ル可シ

第百一條　此抛棄ノ陳述ハ婦自カラ血屬親又ハ後見管理人ト共ニ始審裁判所ニ之ヲ爲サヽル可カラス但シ反對ノ場合ニ於テハ公證人及ヒ證人ノ面前ニ於テ婦ノ爲シタル陳述ヲ裁判所ニ送付セサル可カラス

千八百四十七年ノ法律第二條ヲ看ル可シ

第百二條　婦ハ其父母又ハ後見管理人ノ許諾ヲ以テ何レノ時タリトモ夫ヲシテ加入財産ノ半額ノ爲メ保證人タラシメンヿヲ訟求スルヲ得可シ

千八百四十七年ノ法律第二條ヲ看ル可シ

第百三條　若シ婦ノ父母及ヒ後見管理人カ婦ノ訟求ヲ條理アリト認

知スルニ付キ同意スル時ハ大法官ハ直ニ夫ヲシテ保證人トナラシメ若クハ既ニ保證ノ存スル上ニ猶又夫ヲシテ保證人タラシメサル可カラス然レトモ若シ婦ノ父母及ヒ後見管理人ノ同意セサル時ハ大法官ハ夫ノ財産調査ヲ命シ而シテ後裁判ヲ宣告セサル可カラス

千八百四十七年ノ法律第二條ヲ看ル可シ

第百四條　若シ大法官カ婦ノ訟求ヲ却下スル時ハ婦其却下ヲ知リタル日ヨリ三十日内ニ我小議會ニ上訴スルヿヲ得可シ

第百五條　若シ夫ヲシテ保證人タラシメントスル時夫カ保證人タルノ身分ヲ有セサル時ハ婦ノ爲メニ補佐人ヲ命セサル可カラス但シ補佐人ハ夫ヨリ己レニ加入財産ノ半額ヲ渡サシム可シ而シテ夫カ充分ノ保證ヲ出ス迄婦ノ財産ヲ管理ス可シ然レトモ夫ヲシテ入額ヲ領収セシメサル可カラス

千八百四十七年ノ法律第二條ヲ看ル可シ

第百六條　夫カ婦ノ財産上ニ有スル權利ハ夫ノ身代限ヲ爲ス時止息ス可シ但シ身代限ノ宣告セラルヽヤ否ヤ夫ハ婦ノ權利ヲ行フ爲メ及ヒ婦ノ財産ヲ管理スル爲メ補佐人ヲ婦ニ附ケサル可カラス

千八百四十七年ノ法律第二條ヲ看ル可シ

第百七條　夫ノ債主ハ身代限ノ開始スルヨリ婦ニ屬スル財産上ニ毫モ權利ヲ有セス然レトモ婦ハ自己ノ財産ヲ以テ其家族ヲ養ハサル可カラス

第五款　婚姻ヲ解ク事

第百八條　婚姻ハ左ノ條々ニ因リ終ル可シ

第一　夫婦中ノ一方死去スル事（拿破崙法典第二百二十七條第二項參看）

第二　夫婦中一方ノ發言ニテ裁判所ノ宣告アル事(離婚ノ部ヲ看ル可シ)然レ𪜈婚姻裁判所ハ天主教ヲ奉スル夫婦ノ間ニ離婚ヲ宣告ス可カラス唯畢生間民法上婚姻ノ効驗ヲ生セシメサルヿヲ得可シ但シ婚姻裁判所ハ離婚ノ何レノ場合ニ於テモ務メテ夫婦ヲ和合セシメサル可カラス(拿破崙法典第二百三十九條參看)

第百九條　配偶者カ離婚ノ訟求ニ引出スル理由ハ法律上之ヲ規定ス而シテ婚姻裁判所ハ唯確定セサルカ又ハ確定スル證據ノ有無ヲ審判スルニ止ル但シ此場合ニ於テハ婚姻裁判所ハ別ニ此等ノ理由ノ重要ナルヤ否ヤヲ判決ス可シ

第百十條　確定ノ原由ハ左ノ條々ニ列記ス

第百十一條　第一　姦淫○原告人ハ全ク事實ヲ證明シ又ハ至重ノ推測ヲ以テ之ヲ證セサル可カラス(拿破崙法典第二百二十九條及ヒ第二百三十條參看)

第百十二條　然レ𪜈其配偶者ノ姦淫ヲ許シ若クハ殊更ニ幇助シタル配偶者ノ訴訟ハ受理セラレサル者トス

第百十三條　第二　重罪又ハ重キ輕罪○夫婦中ノ一方カ重罪ノ爲メ民權剝奪ノ刑ニ處セラルヽ時又ハ重罪若クハ重キ輕罪ニ付キ禁錮若クハ四年間追放ノ刑ニ處セラレタル時ハ他ノ一方ハ離婚ヲ要求スルヲ得可シ但シ毫モ重罪輕罪ニ干渉セサルヲ要ス(拿破崙法典第二百二十七條參看)

第百十四條　第三　遺傳病、傳染病又ハ同室スルヲ得サル身體ノ殘缺○夫婦中一方ノ風癲白痴モ亦他ノ一方ヲシテ離婚ヲ要求セシムルヲ許ス

第百十五條　夫婦中ノ一方他ノ疾病又ハ殘缺ニ因リ離婚ヲ要求スル

時ハ婚姻裁判所ハ免許醫ヲシテ十八箇月間治療ヲ施サシムルノ命ヲ下シ其期限ヲ經過スレハ疾病又ハ殘缺ノ性質及ヒ治療シ得ラルヽヤ否ヤノ問題ニ付キ醫師二名ノ報告ヲ其要求書ニ附加セシム可シ但シ其報告ニ因リ毫モ治療ノ目的無キ時ハ離婚ヲ宣告ス可シ

第百十六條　第四　夫婦中一方ノ改宗ハ他ノ一方ヲシテ離婚ヲ要求セシムルノ原因ト成ル可シ

第百十七條　第五　夫其婦ノ明諾セサルニ都府ノ權ヲ抛棄スル時ハ婦ハ離婚ヲ要求スルヲ得可シ但シ政府ノ此抛棄ヲ許可スル前ニ其願書ヲ差出サヽル可カラス

第百十八條　第六　置去○夫婦中ノ一方他ノ一方ヲ遺棄シ承諾ヲ得スシテ一年間不在ナル時ハ塲合ニ從ヒ遺棄セラレタル配偶者ハ通常呼戻書又ハ掲示呼戻書ヲ以テ失踪者ヲ呼戻シ而シテ其義務ヲ履

行セシムルヿヲ得可シ

呼戻書トハ法律ニ記スル或ル塲合ニ於テ裁判官ノ許可スル呼出狀ノ類ヲ云フ例ヘハ呼出ス可キ者ノ住所ノ知レサル時ノ如キ是ナリ

第百十九條　若シ夫カ要用ノ爲メ不在ニシテ其家族ヲ養ハサルヲ得サル時ハ其婦ハ三年ノ後ニ非サレハ夫ヲ呼戻スヿヲ得可カラス

第百二十條　若シ不在ナル配偶者カ其呼戻ヲ受ケシ後ニ歸來ラサル時ハ遺棄セラレタル配偶者ハ呼戻書ニ定メタル期限ヨリ一箇年ヲ經過スルノ後再ヒ不在ノ配偶者ヲ呼戻ス爲メ法庭ニ出頭スルヲ得可シ

第百二十一條　若シ右ノ不在者カ此第二ノ期日後ニ猶ホ不在ナル時ハ其不在ハ惡意アル遺棄ト看做ス可シ若シ但シ此不在者ハ何レノ

場合ト雖モ其理由ヲ證明スルヲ得可シ而シテ遺棄セラレタル配偶者ハ離婚ヲ求ムルヲ得可シ

第百二十二條　夫婦ノ一方其配偶者ノ生命、健康、名譽ヲ害シ或ハ惡キ待遇、粗暴ノ擧動及ヒ始終ノ怠慢ヲ爲シ其他此類ノ理由ノ爲メニ其一方カ離婚又ハ分居(食卓及ヒ寢床ヲ分別スルヲ云フ)ヲ求ムル時ハ婚姻裁判所ハ糺問ヲ遂ケ場合ニ從ヒ告戒ヲ爲シ或ハ有罪ノ配偶者ヲ八日以上二箇月以下ノ禁錮ニ處シ或ハ分居又ハ離婚ヲ宣告セサル可カラス

第百二十三條　分居ハ唯一箇年間之ヲ宣告シ而シテ同一ノ婚姻ニ付キ二回之ヲ宣告ス可シ

第百二十四條　婦ハ分居若クハ離婚ノ訴訟中其後見管理人ニ補佐人ヲ要求シ或ハ補佐人ト爲ル可キ人ヲ自カラ指名スルヲ得可シ但シ

後見管理人カ之ヲ拒ムノ理由無シ又婦カ其配偶者ヲ毫モ宥恕スルノ原由無キ時ニ限ル可シ

第百二十五條　分居及ヒ離婚ノ訴訟ハ若シ夫婦ノ同意スルニ於テハ夫ノ住スル地ノ裁判所又ハ婚姻裁判所ニ之ヲ爲サヽル可カラス

第百二十六條　訴訟手續ハ簡短ナルヲ要ス但シ離婚ノ際夫婦ノ一方ヨリ明瞭ニ通常ノ訴訟手續ヲ求ムル時ハ此限ニ非ス而シテ訴狀及ヒ答辨書ヲ差出シタル以上ハ管轄裁判所ニ之ヲ送付シ管轄裁判所ハ両造ヲ呼出スヿ無ク先ツ自己ノ面前ニ於テ證據ヲ立テシム可キカ將タ僧侶裁判所ニ於テ立テシム可キカヲ決定ス可シ

第百二十七條　分居又ハ離婚ノ事件ニ付テハ民事上通常ノ訴訟手續ニ依ル可シ但シ此場合ニ特別ナル次ノ規則ハ出格ノ者トス

第一　被告人ハ自カラ原告ト成リ反訴ヲ爲シ且其權利ヲ陳述シタ

ル後分居又ハ離婚ヲ決言スルヲ得可シ

第二　原被両造ハ暫ヲ爲スヲ得ス

第三　婚姻裁判所ハ其宣告ヲ爲スニ付キ両造ノ決言ヲ採用スルニ及ハス場合ニ從ヒ要求セラレタル刑ヨリ輕キ刑ヲ宣告スルヿヲ得可シ

第百二十八條　分居又ハ離婚ノ訴訟ニ於テハ婚姻裁判所ノ裁判ニ對シ控訴ヲ爲スヲ得而シテ第百二十二條ノ場合ニ於テ禁錮ノ二十日以上ナル時ハ婚姻裁判所ノ裁判ニ對シ亦控訴スルヲ得可シ

第百二十九條　離婚ヲ言渡ス宣告書ハ同時ニ左ノ條々ヲ定メサル可カラス

第一　耶蘇正教ヲ奉スル離婚シタル夫婦ノ再婚スルヲ得サル期限

○此期限ハ無罪ノ配偶者ノ爲メニハ場合ニ從ヒ婚姻裁判所之ヲ

定メ有罪ノ配偶者ノ爲メニハ四年ノ期限ヲ以テ長期ト爲ス而シテ第二ノ離婚ヲ爲シタル後重大ノ事情アル時ハ婚姻裁判所ハ有罪ノ配偶者ニ其許可無クシテ三度婚姻ヲ爲スヲ禁スルヿヲ得可シ但シ夫婦ノ一方耶蘇正教ヲ奉スルニ於テハ唯其者ノ爲メニ期限ヲ定ム可シ

第二　犯罪人ノ出ス可キ損害ノ賠償

第三　婚姻ヨリ生レタル子ヲ託スル配偶者○子ハ一般ニ壯健ナル配偶者又ハ無罪ナル配偶者ニ之ヲ託ス可シ然レトモ婚姻裁判所ハ子ノ利益ノ爲メニ適當ナリト判定スル時ハ他ノ決定ヲ爲スヿヲ得可シ(拿破崙法典第三百二條參看)

第百三十條　離婚シタル夫婦ハ婦ノ持參シタル財産ニ關スル訴訟ヲ裁判スルカ爲メ及ヒ損害若シハ壯健ナル配偶者カ病氣ナル配偶者

ニ與フ可キ補助又ハ病氣若シハ有罪ノ配偶者カ子ノ養育ノ爲メ拂フ可キ金額ヲ定ムル爲メ民事裁判所ニ訴ヘサル可カラス

此訴訟ニ於テ被告人ハ自カラ原告ト成リ反訴ヲ爲スヲ得可シ而シテ裁判所ハ篤ト事情ヲ察ス可クシテ必シモ雙方ノ要求ニ從フニ及ハス

第百三十一條　離婚ノ訴訟ノ始メ若シハ其訴訟中婦ハ婚姻裁判所ニ訴訟ノ結局ニ至ル迄己レヲ夫ノ住所ヨリ去ラシムルヿヲ請求シ竝ニ夫ヨリ己レノ保養及ヒ訴訟費用ノ爲メニ拂フ可キ金額ヲ定ムルヿヲ要求スル權利アリ(拿破崙法典第二百六十八條參看)

第百三十二條　婚姻裁判所ハ此要求ニ付キ夫ヲ糺問シ又官府ニ夫ヨリ其婦ノ假住所ヲ定ムルヿヲ求ムル願書ヲ熟察セサル可カラス但シ裁判所ヨリ此住所ヲ定メタル場合ニ於テ夫ハ婦カ此命令ニ從フ

時ニ非サレハ其婦ヲ保養スルノ義務無シ(拿破崙法典第二百六十九條參看)

第二百三十三條　訴訟手續ハ右等假ノ要求ニ付テハ簡短ナル可シ而シテ裁判ハ直ニ確定ノ者ト成ル可シ

第百三十四條　離婚ノ訴訟中夫ハ其子ノ世話ヲ爲サシムル可カラス但シ婚姻裁判所カ母ノ願ニ因リ若シハ職權上ヨリ別段規定スル時ハ格別ナリトス(拿破崙法典第二百六十七條參看)

第百三十五條　第百十一條第百十三條及ヒ第百二十二條ニ記スル離婚ノ原由ハ熟和ニ因リテ消滅ス可シ若シ此等ノ箇條ノ一ノ場合ニ於テ被害配偶者カ離婚ノ原由ヲ知リ得タル日ヨリ三箇月間告訴ヲ怠リタル時ハ熟和シタル者ト推測ス可シ

第百三十六條　然レトモ若シ有罪ノ配偶者カ熟和ノ後新ニ告訴ヲ爲シ

タル時ハ復タ其宥恕シタル事實ヲ引出スルヲ得可シ

若シ離婚シタル夫婦ノ加入財産ノ返還ニ付キ夫婦カ協議セサル時ハ民事裁判所ハ簡短ナル訴訟手續ヲ行フタル後審判ヲ爲ス可シ(第百三十條參看)

第百三十七條　夫ハ一般ニ金銀又ハ有價物ニ於ケル加入財産ヲ其婦ニ與ヘサル可カラス(第九十四條以下參看)若シ夫カ加入財産ノ全部又ハ一部ヲ有價物ニテ與ヘントスル時ハ婦ハ其持參シタル物品ノ猶ホ存スル時ハ之ヲ要求スルノ權利アリ而シテ夫ノ與ヘントスル有價物ノ價直ニ付キ協議セサル時ハ之ヲ評價セシメサル可カラス

第百三十八條　若シ婚姻裁判所カ有罪配偶者ヲ損害ノ賠償ニ處シタル時(第百二十九條第二項參看)其賠償ノ額ニ付キ雙方ノ協議セサル

ニ於テハ民事裁判所ハ簡短ナル訴訟手續ヲ爲シタル後其額ヲ定ム可シ但シ裁判所ハ其額ヲ定ムルカ爲メ夫婦ノ財産賠償ヲ得ル者ノ無罪ノ度ト有罪配偶者ノ財産ヲ相續スル希望ヲ失ヒ受クル所ノ損害トヲ熟察セサル可カラス

第百三十九條　若シ婚姻ヨリ生レタル子在ル場合ニ於テ婦子互ニ財産ヲ分派スル時ハ婦ハ熟談ノ上ニテ其夫ヨリ返還シタル者又ハ裁判所ノ判決ノ後返還シタル者ヲ其分派ス可キ財産中ニ包含セシメサル可カラス

第百四十條　夫婦中一方ノ疾病又ハ殘缺ニ因リ婚姻ノ解ケタル時疾病若シクハ殘缺ナル配偶者カ生活スルニ充分ノ財産ヲ有セサル時ハ婚姻裁判所ハ壯健ナル配偶者ヲシテ其病氣ノ保養ヲ助ケシムルヿヲ決定セサル可カラス若シ夫婦カ其金額ニ付キ協議セサル時ハ民

事裁判所ハ簡短ナル訴訟手續ヲ行フタル後之ヲ定ム可シ(第百三十條參看)但シ病情ノ變化シタル時ハ夫婦中一方ノ願ニ因テ其金額ヲ增減セラルヽ者トス

第百四十一條　離婚シタル夫婦カ互ニ再婚セント欲スル時ハ其住スル地ノ僧侶裁判所ヲシテ婚姻裁判所ニ離婚ノ判決書ヲ送付セシメテ再婚ヲ請求ス可シ但シ婚姻裁判所ニ於テ其請願ヲ許可スル判決書ハ婚儀ヲ行フニ等キ者トス

第百四十二條　離婚シタル夫婦ハ其一方カ離婚ノ後他人ト結婚シタルニ於テハ再ヒ共ニ婚姻スルヿヲ得ス

第三卷　父母ト子ノ權利上ノ關係

第一款　適出ノ子タル事

第百四十三條　拿破崙法典第三百十二條第一項及ヒ第三百十五條ニ同シ

第百四十四條　拿破崙法典第三百十二條第二項ニ同シ

第百四十五條　右ノ權利ハ父カ其子ノ洗禮ニ立會ヒ若クハ三箇月內ニ告訴ヲ爲サヽル時ハ之ヲ失フ但シ此期限ハ夫カ其子ノ出產ヲ確知シタル時ヨリ計算ス而シテ夫出產ノ時不在ナル時ハ其歸來リタル日ヨリ之ヲ起算ス可シ(拿破崙法典第三百十六條參看)

第百四十六條　告訴セラレタル婦ノ產ミシ子ヲ除キ夫ノ其他ノ相續人ハ夫ト同シ子ノ適出ニ非サルヿヲ訴出スルヿヲ得可シ(拿破崙法典第三百十七條參看)

第百四十七條　私生子ハ其父母ノ婚姻スル時適出ノ子タルヿヲ得可シ(拿破崙法典第三百三十一條參看)但シ私生子死去スル時其遺留シタル適出ノ子ハ祖父ノ適出ノ卑屬親ト看做ス可シ

第百四十八條　父母ハ其子ヲ養育セサル可カラス即チ宗旨上ノ教育ヲ爲シ必要ナル知識技藝ヲ教訓シ將來ノ幸福ヲ豫備セサル可カラス又其子ノ名譽健康ニ注意シ之ヲ相當ニ保養セサル可カラス(拿破崙法典第二百三條參看)

第百四十九條　後見管理人ハ父母ノ其子ニ對シ義務ヲ行フカヲ注意シ義務ヲ怠ル有レハ之ヲ戒メ猶ホ聽カサル時ハ大法官ニ之ヲ告知セサル可カラス而シテ大法官ハ其事件ヲ調査シタルノ後必要ノ處分ヲ爲ス可シ

第百五十條　大法官カ子ノ後見ヲ受ク可キ期限間子ニ後見人ヲ附シタル時ハ其父母ハ父權及ヒ其他父タル諸權利ヲ失フ可シ(第百五十三條及ヒ第百五十八條參看)

第百五十一條　財產ヲ所有スル父母ハ正キ婚姻ヲ爲ス女ニ自己ノ正當ナル財產中ヨリ嫁資ヲ與ヘサル可カラス而シテ父母ト子ノ相協議セサル時ハ大法官其額ヲ定ム可シ

第百五十二條　前二條ノ場合ニ於テ敗訴シタル一方ハ三十日ノ期限間大法官ノ判決ニ對シ我小議會ニ控訴スルヲ得可シ

第百五十三條　親權ハ父母ナシテ其子ニ對シ義務ヲ行ハシムル爲メ法律上父母ニ許與スル所ノ權利ヲ云フ其權利ハ一家長トシテ父之ヲ行フ可シ(拿破崙法典第三百七十三條參看)若シ父治產ノ禁ヲ受ケタル時ハ婦其夫ノ後見人ノ補助ヲ得テ親權ヲ行ヒ又父死去シタル時ハ婦寡婦タル間ハ自己ノ補佐人ノ助ケヲ得テ之ヲ行フ可シ但シ離婚ノ後ハ子ヲ依託セラレタル父母ノ中一人親權ヲ行フ可シ

第百五十四條　父母ハ其子ヲ教訓シ家事及ヒ職業ヲ行ハシメ且逃亡シ若クハ誘拐セラレタル時其權下ニ之ヲ取戻スノ權利アリ

第百五十五條　若シ父母告戒又ハ健康ヲ害セサル正當ノ刑罰ヲ用ヒ其子ヲ從順ナラシムルヲ得サル時ハ小議會ノ許可ヲ得自己ノ費用ヲ以テ其子ヲ拘留所ニ入ルヽヿヲ得可シ而シテ其期限ハ確定スルヿアリ又ハ確定セサルヿアリ但シ二年以上繼續スルヲ得ス亦丁年ヲ越ユルヲ得ス(拿破崙法典第三百七十七條參看)

第百五十六條　父母カ幼者ノ婚姻ニ故障ヲ述フル權利ハ第三十二條第六十四條及ヒ第六十九條ニ規定ス

第百五十七條　若シ母ノ死去シタルヲ以テ子カ直ニ母方ノ祖父ニ相續スル時ハ父ハ其子ノ親權ヲ行フ期限間此遺物ヲ利用スルノ權利ヲ有ス但シ法律上別段ノ規則アル時ハ此限ニ非ス然レトモ子ノ親權ニ從ハサル時ハ其遺物ノ部分ヲ其子ニ與ヘサル可カラス(第百六十五條參看)

第百五十八條　若シ親權ニ從フ子カ法律上利用ノ權利ヲ定メサル遺物ヲ如何ナル方法ニテモ相續スル時ハ父母ハ後見管理人ノ許可ヲ經テ其子ヲ保養シ若シハ一家ヲ維持スル爲メニ入額ノ全部又ハ一部ヲ用フルヿヲ得可シ但シ子カ親權ニ從フヿト父母ノ過失無ク貧窮スルヿトヲ要ス(拿破崙法典第三百八十四條參看)

第百五十九條　先ニ死シタル母ノ財產ニ付テハ其子ハ第八十八條及ヒ第九十九條乃至第百六條ニ依リ母ニ歸與セラルヽ所ノ權利ヲ有ス可シ

第百六十條　若シ父ノ再婚スル時其子ノ丁年ニ達シタルニ於テハ先ニ死シタル母ノ財產中己レノ取ル可キ部分ノ半ヲ其子ノ各ニ渡サヽル可カラス而シテ父ノ生存中子ノ一人カ卑屬親ヲ遺サス又ハ遺囑ヲ爲サスシテ死去スル時ハ他ノ數子ハ其子ノ母ヨリ受ケタル財

產ヲ互ニ相續ス可シ

第百六十二條　契約ヲ爲シテ義務ヲ負擔スル能力ニ關スル場合ニ於テハ後見ニ於ケル人ニ係ル第二百十二條ノ法則ヲ親權ニ從フ子ニ適用ス可シ但シ第百六十四條ニ記スル法則ハ此限ニ非ス

第百六十二條　父母ト子ト爲シタル契約ノ効アルカ爲メニハ子ハ非常補佐人ノ立會ヲ受ケ(第三百二十五條參看)且大法官カ其契約ヲ確認スルヿヲ要ス

第百六十三條　親權ニ從フ子ハ他人ノ保證人ト爲リ自己ノ財產ヲ書入質ト爲スヲ得ス又自己ノ受ク可キ遺物ニシテ未タ開始セサル者ヲ讓渡スヿヲ得ス

第百六十四條　親權ヲ依託セラレタル人ノ許可ヲ以テ公務ヲ行ヒ又ハ自己ノ爲メニ職業ヲ爲ス子ハ其生スル利益ヲ所有ト爲スヲ得可シ然レ𪜈父母ニ義務ヲ負擔セシメ及ヒ商業若クハ職務上行フ所ノ事件ニ付キ自カラ義務ヲ負フ可カラス

第百六十五條　親權ハ左ノ條々ニ因テ終ル可シ

第一　父母ノ死去治產禁及ヒ子ノ後見(第百五十條及ヒ第百五十三條參看)

第二　子カ丁年ニ至リ其財產利用ノ權ヲ有シタル時○例之ハ滿二十四歲ト成リ財產ヲ有シ父母ト別居シ(第百五十七條及ヒ第百五十八條參看)其人權ヲ有スル時ノ如キ是ナリ(第百六條參看)然レ𪜈若シ二十四歲ノ後猶ホ父母ノ養育ヲ受クル時ハ親權ハ其養育中繼續ス可シ

第三　子ノ婚姻○此場合ニ於テハ男子ハ其人權ヲ得(第十六條參看)而シテ女子ハ夫ノ權下ニ從フ可シ(第八十三條以下及ヒ拿破崙法

典第四百七十六條參看)

第四　親權ヲ行フ人ノ願ニ因リ我小議會ニ於テ滿二十歳ノ男子ニ許與スル後見免除(拿破崙法典第四百七十七條參看)

二十歳ノ幼者ノ爲メ後見免除ヲ請求スル人ノ願書ハ必ス後見管理人ノ許諾ト父ノ最親近ニシテ自カラ請願ヲ爲サヽル血屬親二名ノ許諾トヲ添ヘサル可カラス

第五　母ノ再婚(第百五十三條參看)○此場合ニ於テ幼者ハ後見ヲ受ク可シ(第二百十一條參看)

第二款　私生ノ子タル事

第百六十六條　私生子ハ母ノ養育ヲ受ケサル可カラス而シテ母ト同邑ニ屬ス可シ

第百六十七條　私生子ノ父ハ其住スル邑ノ許可ヲ以テ婚姻裁判所ニ

其子ヲ認知スルヿヲ要求スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ子ハ父ノ姓ヲ名乘リ父ノ養育ヲ受ケ父ト同一ノ邑ニ屬ス可シ

第百六十八條　私生子ノ母ハ婚姻裁判所ニ父ナリト證明スル者ヲシテ其子ノ養育ヲ分擔セシムルノ裁判ヲ求ムルノ權利アリ若シ母自カラ其權利ヲ行ハサル時ハ邑之ニ代テ其權利ヲ行フヲ得可シ(第百九十六條以下參看)

第百六十九條　此分擔ノ額ヲ定ムル爲メニ裁判所ハ被告人ノ財產及ヒ引出シタル證據ノ多寡ヲ熟考セサル可カラス

第百七十條　婚姻裁判所ハ猶ホ私生子ノ父ナシテ私生子ノ住スル邑ニ對シ損害ノ賠償ヲ拂ハシムル事ニ處セサル可カラス

第百七十一條　此償金ハ第百六十一條ニ記スルカ如ク定メサル可カラス而シテ其額ハ少ナクモ五十「フラン」ニシテ多クハ五百「フラン」タ

ラサル可カラス但シ其償金ハ確定ノ日ヨリ之ヲ得ルノ權利ヲ生シ十四日ノ終ニ於テ要求スルヲ得可キ者トス

第百七十二條　父ノ拂フタル償金ハ第百四十七條及ヒ第百六十七條ニ記スル方法ノ一ニ從ヒ子カ父ノ權利ヲ分派スル時子ヨリ返還セラル可シ

第百七十三條　未婚ノ婦ハ懷胎ノ後少ナクトモ二百十日迄ニ其懷妊シタル旨ヲ其住スル地ノ僧侶裁判所ノ法教師若クハ其他ノ役員ニ陳述セサル可カラス然ル時ハ法教師若クハ其他ノ役員ハ其婦ニ證券ヲ與フ可シ

第百七十四條　僧侶裁判所ノ役員ハ初回ノ會議ニ懷妊ノ調書ヲ作ラサル可カラス

第百七十五條　僧侶裁判所ハ婦ヲ呼出シ男子、場所、時間及ヒ懷妊ノ景

情ニ付キ糺問ヲ爲シ其答辨ノ調書ヲ作リ且分娩ニ必要ナル醫師二名ノ外ニ男女ヲ論セス能力アル證人二名ヲ出サシムルノ命ヲ下シ而シテ此等ノ者ニ分娩ノ時期ヲ調査セシム可シ

旦僧侶裁判所ハ各邑ニ於テ證人ト爲ル可キ人ヲ指名セサル可カラス而シテ證人ハ只管分娩ノ時期、場所及ヒ子ノ男女ヲ證セサル可カラス

第百七十六條　僧侶裁判所ニ於テ女ヲ訊問シタル後法教師ハ直ニ懷妊セシメタル本人ナリト指名セラレタル者ヲ呼出シ調書ヲ示シ答辨ノ有無ヲ尋問ス而シテ被告人ハ高聲若クハ書面ヲ以テ答辨ヲ爲スヲ得可シ但シ法教師ハ僧侶裁判所ノ初回ノ會議ニ於テ其答辨ノ調書ヲ作リ若クハ答辨ヲ爲スヿヲ拒ムノ調書ヲモ作ル可シ

第百七十七條　若シ被告人ノ他邑ニ住スル時ハ僧侶裁判所ハ其邑ノ

法敎師ナシテ婦ノ糺問ノ調書及ヒ其答辨ノ調書ヲ被告人ニ示ス可シ

第百七十八條　婦ハ一箇月內ニ其分娩ノ調書ヲ僧侶裁判所ニ送リ僧侶裁判所ハ其抄書ヲ被告人ニ送リ而シテ凡テノ書類ヲ婚姻裁判所ニ送ル可シ

第百七十九條　婚姻裁判所ハ子ヲ母ニ依託ス可シ(第百六十六條參看)

但シ第百六十七條ノ場合ヲ除ク而シテ婚姻裁判所ハ其議決ヲ現ニ子ノ屬スル邑ニ示ス可シ

第百八十條　若シ子ノ父ナリト認ムル被告人アル時(第百七十六條及ヒ第百七十七條參看)ハ婚姻裁判所ハ子ノ保養ヲ分擔セシメ且邑ニ對シ償金ヲ拂ハシム可シ

第百八十一條　若シ被告人父ナリト認メサル時ハ婚姻裁判所ハ其判

決ニ於テ懷妊セシメタル本人ニ對シ母ノ權利(第百七十八條參看)及ヒ邑ノ權利アリト認ム可シ

第百八十二條　前條ノ場合ニ於テ母ハ子ヲ依託セラルヽヤ否ヤ其保護ノ分擔ヲ求ムル爲メニ出訴ヲ爲スヲ得可シ而シテ子ノ已レニ依託セラルヽヲ知リタル日ヨリ三箇月間之ヲ爲ス可シ但シ被告人ノ不在ナル場合ヲ除ク(第百八十七條及ヒ第百八十八條參看)

第百八十三條　私生子ノ母ハ分娩シタル地ノ僧侶裁判所又ハ其住スル地ノ裁判所ニ出訴スルヿヲ撰フノ權利アリ

右ノ出訴ヲ爲スニハ簡短ナル訴訟手續ニ依ル可シ

第百八十四條　右ノ訴狀ニハ懷妊ノ時期其場所其景情其證券(第百七十三條參看)並ニ分娩ノ時期及ヒ出訴人ノ糺問書ヲ記セサル可カラス(第百七十三條參看)

第百八十五條　被告人ハ左ノ條々ヲ證明シ得ル時出訴ヲ拒絶セシム
ルヿヲ得可シ
第一　被告人告訴狀ニ記シタル場所及ヒ時期ニ於テ懷妊セシメタ
ル本人ナル可カラサル事
第二　原告人不品行ヲ爲シ生活ヲ送ル事
第三　原告人既ニ二人ノ私生子ヲ有シ若シハ姦淫ノ原因ニテ離婚
ヲ言渡サレタル事
第四　原告人カ父タル者ヲ指名シタル時其陳述ノ變更シタル事(第
百七十五條參看)
第五　原告人私權剝奪ノ刑ニ處セラレタル事
若シ被告人カ姦淫シタリト認メラレ又ハ猥褻ノ罪ニテ二回罰ヲ
受ケタル時又ハ私權剝奪ノ刑ニ處セラレタル時ハ己レノ過失ヲ

原告人ニ歸責スルヲ得ス
第百八十六條　婦若シ其懷妊ノ陳述ヲ怠リ(第百七十三條參看)又ハ甚
シク遲延シタル時ハ出訴ヲ爲スノ權利ヲ失フ可シ
婦ハ其過失ニ因リ分娩ノ時證人ヲ呼フヿヲ怠リタル時モ亦此權利
ヲ失フ可シ
第百八十七條　子ノ保養費分擔ノ訴ハ被告人ノ自國ニ住スルニ於テ
ハ第百八十二條ノ期限內ニ爲サヽル時ハ受理セラレサル者タリ若
シ被告人不在ナル時ハ原告人ハ被告人ノ歸國ヨリ一年內ニ出訴セ
サル可カラス
第百八十八條　婚姻裁判所ハ出訴人カ充分ノ理由アリテ第百八十二
條及ヒ第百八十六條ヲ遵奉セサル場合ニ於テハ職權上ヨリ宥恕ヲ
許スヿヲ得可シ

第百八十九條　二十歳以上ノ婦ハ懷妊セシメタル本人ナリトシテ十六歳以下ノ人ヲ告訴スルヿヲ得ス

第百九十條　外國ノ婦ハ本國ノ法律ニ於テ我國ノ婦ニ同一ノ權利ヲ許與スルニ非サレハ己レヲ懷妊セシメタル本人ニ對シ訴ヲ爲スヿヲ得ス

第百九十一條　被告人ハ第百八十五條第百八十九條及ヒ第百九十條ニ記スル證據ノ一ヲ出ス時又ハ第百八十二條及ヒ第百八十六條ニ記スル理由ノ一ニ因リ出訴スルノ權カ消滅スルヿノ書類若クハ契約中ニ明瞭ナル時ハ僧侶裁判所ハ簡短ナル訴訟手續ヲ爲シタル後書類ト共ニ雙方ノ證人ヲ婚姻裁判所ニ送ラサル可カラス

第百九十二條　婚姻裁判所ハ雙方ノ者ヲ呼出シ訴訟手續ヲ爲シタル後判決ヲ爲ス可シ

第百九十三條　若シ毫モ假請願ノ在ラサル時又ハ假請願ノ裁判セラレタル時被告人ハ其答辯ノ調書ヲ作ラサル可カラス而シテ後婚姻裁判所ハ訴ヲ聽ク可シ

第百九十四條　若シ糺問ノ後婚姻裁判所カ被告人ノ有罪無罪ニ付テ疑ヲ抱キ被告人ノ婚姻セスシテ其容貌ノ疑シキニ於テハ婚姻裁判所ハ被告人ニ誓ヲ爲サシメ或ハ其容貌ノ疑シカラサル場合ニ於テハ婦ニ誓ヲ爲サシムルヿヲ得可シ

第百九十五條　若シ婦カ懷妊ノ誓ヲ爲ス時ハ婦ハ分娩前三百日又ハ百八十日間被告人ノ外男子ト同室セサリシヿヲ確言セサル可カラス亦被告人誓ヲ爲シテ無罪ヲ證スル時ハ被告人ハ分娩前三百日又ハ百八十日間原告人ト同室セサリシヿヲ確言セサル可カラス

第百九十六條　若シ被告人事實ヲ認メ又ハ原告人ノ言ニ承服スル時

ハ婚姻裁判所ハ子ノ保養ヲ分擔スル事ニ處斷ス可シ(第百六十八條第百七十條以下參看)

第百九十七條　被告人ハ子ノ十七歳ニ至ル迄此費用ヲ拂ハサル可カラス

第百九十八條　父ハ六箇月毎ニ此金額ヲ母ニ拂ヒ或ハ邑ヨリ保護スル時ハ邑ニ之ヲ拂ハサル可カラス但シ六箇月ノ初日ニ至リ子ノ生存スル時ハ拂期限ハ既ニ盡キタル者トス

第百九十九條　本條ハ千八百三十四年十二月一日ヨリ施行ス可キ千八百三十四年九月十八日ノ法律ヲ以テ之ヲ廢セリ

第二百條　若シ父ノ死去スル時ハ其父タルヿハ自筆自署ノ書面ヲ以テ之ヲ證シ又ハ裁判所若クハ公證人及ヒ證人ノ面前ニ於テ公然自白ヲ爲シ以テ之ヲ證セサル可カラス

第二百一條　若シ被告人ノ瑞士人ナラサル時ハ原告人若クハ邑ハ第百七十三條ニ記スル法式ニ從ヒ其國ニ在ル財產上ノ權利ヲ保存スル爲メ假ノ處分ヲ求ムルヲ得可シ

第二百二條　父ヲシテ子ノ保養ヲ分擔セシムル場合及ヒ損害ノ賠償ヲ言渡シタル場合ニ於テハ婚姻裁判所ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲スヿヲ得可シ(第百七十條參看)

第二百三條　私生子ハ其依託人ヨリ(第百六十四條及ヒ第百七十九條參看)他日自己ノ需用ヲ辨スル爲メ必要ノ教訓ヲ求ムルノ權利アリ

第二百四條　私生子ノ父權ハ私生子ノ屬スル邑之ヲ行フ可シ而シテ邑ハ其依託人カ職分ヲ行フヤ否ヤニ注意ス可シ(第二百三條參看)

第二百五條　私生子ハ概シテ其母ノ姓ヲ名乘ル可シ然レトモ若シ母カ離婚シタル時又ハ寡婦ナル時ハ第一ノ離婚ニ於テハ離婚シタル夫

及ヒ第二第三ノ離婚ニ於テハ夫ノ親族ヨリ婚姻裁判所ニ親族ノ一ノ新姓ヲ子ニ與フルヿヲ要求スルノ權利アリ

第二百六條　私生子ハ其父ノ親族ニ屬セス亦其母ノ親族ニモ屬セサル者ニシテ此等ノ親族ニ對シテハ血屬親ノ關係ヨリ生スル所ノ私權ヲ失フ可シ然レトモ婚姻ヲ爲スニ於テハ一ノ親族ヲ組成シテ法律ノ認知スル血屬親ノ關係ヲ立ツルヲ得可シ(拿破崙法典第七百五十六條參看)

第四卷　後見ノ事

本卷ハ遺留奴政府ヨリ佛文ニテ遺留奴領ジユラーノ爲メニ公布シタル者ナリ吾輩ハ既ニ言ヘリ本卷ハ千八百二十六年四月一日ヨリ遺留奴領ジユラーニ適用ス可キヿヲ

第一章　後見ノ構成

第二百七條　我小議會ハ自カラ事務ヲ處辨スルニ付キ我邦ニ於テ必要ノ能力無キ人民ノ上等後見ナリ

第二百八條　大法官ハ小議會ノ監察ヲ受ケテ後見人ノ監督ヲ爲ス可シ而シテ大法官ハ其職權上ヨリ後見官、後見人及ヒ裁判所ヨリ任スル補佐人カ其職分ヲ盡スヤ否ヤヲ監察ス可シ

人口多キ邑ニ於テハ小議會ハ後見人ノ監督ヲ行フ任アル委員ヲ命スルヿヲ得可シ

第二百九條　各邑ノ議會ハ其管轄内ニ於テ通常後見官タリ若シ同一ノ邑ニ於テ數箇ノ後見官在ル時ハ皆等ノ直ニ大法官ノ監督ヲ受ク可シ

非常ノ場合ニ於テハ我小議會ハ求メニ因リ後見ヲ受クル人(第二十五條參看)ノ父母ニ後見官ノ權利ヲ與ヘ且父母ヲシテ其怠慢ニ因リ

後見ヲ受クル者ニ生ス可キ損害ヲ償ハシメンカ爲メニ充分ナル保證金ヲ出サシメ以テ後見官ノ職分ヲ命スルヿヲ得可シ(第二百十條參看)

此場合ニ於テ父母ハ大法官ニ對シ通常後見官ト同一ノ關係ヲ有ス可シ

第二百十條　後見官(第二百九條參看)ハ其怠慢ニ因リ後見ヲ受クル者ニ生ス可キ損害ノ責ニ任ス(第二百五十七條及ヒ第二百五十八條參看)然レ𪜈若シ後見人ノ詐僞及ヒ其怠慢ニ因リ生シタル損害ハ後見官、後見人ノ無資力ナル時ニ非サレハ之ヲ償フノ責ニ任セス(第二百五十六條參看)

第二百十一條　親權ノ下ニ在ラサル幼者未婚若クハ後見ヲ免レサル幼者(第百六十五條第四項及ヒ第二百九十八條第三項參看)及ヒ正當

ニ財産處置ノ權ヲ停止セラレ若クハ管轄廳ヨリ後見ヲ命セラレタル丁年者(第二百三十二條參看)ハ後見人ヲ附セラレサル可カラス

千八百四十七年五月二十七日ノ法律ハ本條ノ第一項丁年婦ノ補佐人ニ關スル末文ヲ除去シタリ

孤又ハ貧人ノ財産大管理人アル邑ニ於テハ其管理人ハ此等ノ人ノ位置如何ニ因リ後見人又ハ裁判所ヨリ任スル通常補佐人ノ權利職分ヲ行フ可シ

第二百十二條　後見人又ハ裁判所ヨリ任スル通常補佐人ノ監督ヲ受クル諸人ハ其特別ニ關係スル裁判上ノ所爲竝ニ契約ニ於テハ後見人及ヒ補佐人ニ因リ代理セラレサル可カラス若シ後見人若クハ裁判所ヨリ任スル補佐人ノ干與無ク爲シタル契約ハ毫モ義務ヲ生セサル可シ而シテ斯ノ如キ所爲ニ因テ爲シタル者即チ引渡シタル凡

ヲノ者ハ後見人又ハ裁判所ヨリ任スル補佐人之ヲ取還スヲ得可シ
(第百六十一條參看)但シ第百六十四條第三百七條以下ニ明記スル例
外ノ場合ハ此限ニ非ス(拿破崙法典第四百五十條參看)

第二百十三條　男女ノ如何ヲ問ハス財産ノ管理ヲ丁年者ニ禁スルノ
理由ハ自カラ財産ヲ管理スルヲ得サルニ至ラシメタル無智不具浪
費ト家産ヲ失ハシムル不理ノ所爲トニ在リ

第二百十四條　後見官ハ前條ニ記スル理由ニ因リ治産禁ヲ命ス可キ
人アル時ハ大法官ニ其禁止ヲ爲ス可キヿヲ勸メサル可カラス但シ
父母モ亦此權利ヲ有ス可シ(拿破崙法典第四百九十條參看)

第二百十五條　此治産禁ノ願ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ而シテ其願
ノ理由タル事實ハ明細ニ之ヲ記セサル可カラス若シ無智不具ノ理
由ナル時ハ事情ニ從ヒ本人ノ陳述若シクハ無智不具ノ度ヲ證スル免

許狀二名ノ手署シタル書面ヲ其願書ニ添ヘサル可カラス(拿破崙法
典第四百九十二條參看)

第二百十六條　若シ治産禁ノ願カ後見官ヨリ發スル時ハ大法官ハ之
ヲ本人ノ父母ニ通知シ亦父母願ヲ爲シタル時ハ大法官ハ之ヲ後見
官ニ通知ス可シ

第二百十七條　若シ後見官カ通知セラレタル父母ノ願ヲ允許スル時
或ハ父母カ通知セラレタル後見官ノ願ヲ允許スル時ハ大法官ハ直
ニ本人ノ爲メ後見人ヲ命ス可シ

第二百十八條　若シ後見官カ父母ノ願ヲ允許セス或ハ父母カ後見官
ノ願ヲ允許セサル時ハ願ノ理由ヲ調査セサル可カラス但シ大法官
本人ヲシテ損害アル所爲ヲ行ハシメサルカ爲ノ直ニ假ノ處置ヲ爲
サヽル可カラス

第二百十九條　前條ニ記スル場合ニ於テハ大法官願書中ニ記スル事實ニ付キ本人ヲ糺問シ其答辨ノ調書ヲ作ル可シ而シテ若シ本人疑シキ事實ヲ引用スル時ハ其證明ヲ爲サシムルカ爲メ確固タル期限ヲ定ム可シ(拿破崙法典第四百九十六條參看)

第二百二十條　此期限ノ終ニ於テ大法官ハ地方裁判所ノ官吏ニ訴訟書類ヲ廻送ス可シ而シテ大法官ハ定日ニ於テ右ノ裁判所ニ本人ヲ呼出ス可シ但シ此呼出ハ訴件ヲ審査シ本人ヲシテ口頭ノ答辨ヲ爲サシムルニ在リトス

第二百二十一條　治産禁ヲ言渡サレタル人及ヒ治産禁ヲ求メタル人ハ十四日内ニ地方裁判所ノ判決ニ付キ控訴院ニ控訴スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ大法官訴訟書類ヲ控訴院ニ送付ス可シ

第二百二十二條　控訴院若シ從前ノ糺問ヲ知ラント欲スル時ハ之ヲ要求スルノ權利アリ但シ控訴院ハ既ニ糺問ヲ遂ケタリト思量スル時ハ再ヒ原被兩造ヲ糺問スルヿ無シ終審裁判ヲ爲ス可シ(拿破崙法典第五百條參看)

第二百二十三條　丁年者ノ治産禁ヲ求ムル者ハ何レノ場合ト雖モ此事實ノ爲メ訴ヘラルヽヲ得ス然レモ控訴院ニ於テ惡意アリト認知シタル場合ニ於テハ訴訟ノ費用ヲ拂ハシムルヿヲ得可シ

第二百二十四條　大法官ハ裁判ヲ執行シ公用新聞及ヒ寺院ニ於テノ公告若クハ此二個ノ方法ヲ用ヒタル場所ニ於テ貼紙等ヲ爲シテ丁年者ニ言渡サレタル治産禁ヲ公布スル任アリ(拿破崙法典第五百一條參看)

第二百二十五條　若シ後見人ノ監督ヲ受クル人若シハ親權ノ下ニ生活スル人カ其無能力ヲ知ラサル者ヲ誘惑シテ或ル契約ヲ爲シタル

時ハ此契約ハ當然無効ニスル可シ凡ソ契約者ノ一方カ斯ノ如キ契約ヲ執行シタル時ハ成丈物品ヲ返還ス可ク而シテ大法官ハ其後見人ノ監督ヲ受ケタル人若クハ親權ノ下ニ生活スル人ヲ十[フラン]以上五十[フラン]以下ノ罰金二日以上十四日以下ノ禁錮ニ處ス可シ

第二百二十六條　後見人ノ監督ヲ受クル丁年者ハ政權ノ執行ヲ停止セラル可シ(第十七條參看)

第二百二十七條　丁年者カ後見ヲ受ケタル原由ノ止息スル時ハ第二百十四條乃至第二百二十二條ニ記スル方法ニ從ヒ後見ヲ免除シ其全權ヲ復セシム可シ(拿破崙法典第五百十二條參看)

第二百二十八條　治産禁ノ免除若クハ廢棄ハ後見官及ヒ父母ノ申立ニ因リ言渡サル可シ然レトモ若シ後見官父母又ハ治産禁ヲ受ケタル者而已獨リ之ヲ要求スル時ハ地方裁判所ハ其要求ノ理アルヤ否ヤ

ヲ審査シテ判決ヲ爲ス可シ

第二百二十九條　後見官父母又ハ治産禁ヲ受ケタル者ノ治産禁ヲ廢棄セントスル要求ハ第二百十五條ニ記スル方法ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ但シ其要求ハ第二百十六條乃至第二百二十條ニ記スル法式ニ從ヒ之ヲ審判ス可シ

第二百三十條　治産禁ニ於ケル裁判ノ控訴ニ係ル第二百二十一條乃至第二百二十三條ニ記スル者ハ後見廢棄ノ要求ヲ單ニ爲シタル時言渡サレタル裁判ニ對シ控訴ヲ爲スニ於テモ亦遵奉セサル可カラス

第二百三十一條　後見ノ廢棄ハ治産禁ト同一ノ方法ニテ之ヲ公布ス可シ(第二百二十四條參看)

第二百三十二條　控訴裁判所ハ管轄廳ト共ニ法律ニ記載スル場合ニ

於テハ執拗ナル異教者ニ對シ治産禁ヲ宣告セサル可カラス而シテ一年若クハ數年ノ禁獄ニ處セラレタル諸人ハ裁判ヲ執行スル日ヨリ其禁獄中後見人ノ監督ヲ受ク可シ

第二百三十三條　通常後見人カ其名義ニテ行爲スルヲ得サル場合ニ於テ(第三百二十五條參看)我法則ニ從ヒ父又ハ母ノ權下ニ生活スル人若クハ官廳ヨリ後見人ヲ附セラレタル人ノ爲メニ設クル補佐人及ヒ不在者ノ財產ヲ管理スル爲メニ設クル管財人(第三百十三條以下參看)ハ裁判所ヨリ任スル非常補佐人ト名ク可シ

第二百三十四條　裁判所ヨリ任スル非常補佐人ハ後見官ノ求メニ因リテ設ケラレタル時ハ其委任セラレタル管理ニ付キ後見官ノ監督ヲ受ク可シ若又後見官ノ同意無ク大法官ノ特權ヲ以テ設ケラレタル時ハ大法官ノ監督ヲ受ク可シ

第二章　異ノ後見

第一款　後見人ヲ設クル事

第二百三十五條　父母ハ其權下ニ生活シテ己レノ財產ヲ有スル子ノ自然ノ後見人タリ而シテ親權ヲ行フ人ハ後見ノ職ヲ行フニ付キ特別ノ命令ヲ受クルニ及ハス(第百五十三條及ヒ拿破崙法典第三百八十九條參看)

第二百三十六條　父母ハ方法ノ如何ヲ問ハス其子ニ或ル財產ノ來ル時ハ其住スル地ノ後見官カ目錄ヲ作リ得ル爲メニ其旨ヲ後見官ニ通知ス可シ(第二百五十九條以下參看)但シ洗禮ノ時子ニ與ヘラレタル贈物及ヒ子ノ受クル所ノ年玉ハ本則ノ例外ナリトス

第二百三十七條　此通知ハ父母カ其子ニ財產ノ到來シタルヿヲ知了シタル日ヨリ一箇月內ニ之ヲ爲ス可シ若シ此通知ヲ右ノ期限內ニ

爲サヽル時ハ後見官ハ子ノ財産ヲ管理スル爲メ裁判所ニリ任スル非常補佐人ヲ命ス可シ(第二百三十三條參看)但シ父母ノ此遲延ヲ辨明シ得ル場合ハ此限ニ非ス

第二百三十八條　後見官ハ其管轄地内ニ於テ後見人ノ監督ヲ受ク可キ者(第二百十一條參看)カ必ス後見人ヲ附セラルヽヤ否ヤヲ監督セサル可カラス

第二百三十九條　後見官ハ其管轄内ノ者カ後見人ノ監督ヲ受ク可キ場合ニ在ルノ報知ヲ得タルヨリ大法官ニ報告ヲ爲シ同時ニ後見ノ職ニ適當ナル一人又ハ數人ヲ申立テサル可カラス

第二百四十條　地方警察官其地ノ住民カ後見人ノ監督ヲ受ク可キ場合ニ在ルノ報知ヲ得タル時ハ前條ト同一ノ義務ヲ爲サヽル可カラス而シテ大法官其報告ヲ受ケタル時ハ後見ニ關スル法律ノ施行セ

ラル、カ爲メ必要ナル處置ヲ爲サヽル可カラス

第二百四十一條　父又ハ父ノ死去シタル後母カ遺囑書ヲ以テ猶ホ親權ノ下ニ在ル子ノ爲メニ後見人ヲ撰ヒタル時ハ遺囑書ニ依リ後見人ヲ命ス可シ然レトモ若シ遺囑書ニ記スル人後見ノ職ヲ行フニ付キ必要ナル身分ヲ有セサル時ハ後見官其旨ヲ大法官ニ報告セサル可カラス

第二百四十二條　大法官ハ申立テラレタル者ノ一人ニ後見ヲ命ス可シ但シ無能力タルノ原由ヲ知ル場合ハ此限ニ非ス而シテ大法官ハ後見人ニ其授職ノ旨ヲ報知シ誓詞ヲ述フルノ期限ヲ定メサル可カラス(第二百四十七條參看)

第二百四十三條　後見ヲ受ク可キ人ト財産ヲ共通スル人又ハ其後見ヲ受ク可キ人ト訴訟ヲ爲ス人幼者ノ母ヲ除キ凡テ補佐人無ク政權

ヲ行フヲ得サル人(第十六條及ヒ第二百三十五條參看)政權ヲ失フタル人又ハ政權ヲ行フヿヲ停止セラレタル人(第十七條參看)ハ後見人ト爲ルヲ得サル者タリ(拿破崙法典第四百四十二條參看)

第二百四十四條　大法官又ハ後見官ヲ組成スル役員ハ後見人タル可キ人ノ存スル以上ハ後見人ト爲ルカ爲メ申立テラルヽヲ得ス又後見人ニ補セラルヽヲ得ス但シ法律上ニ於テ裁判所ヨリ任スル非常補佐人ヲ後見官ノ役員中ヨリ撰任スルヿヲ定ムル場合ハ此限ニ非ス(第九十六條以下參看)

第二百四十五條　何人タリト雖モ大法官ヨリ命セラレタル後見ノ職ハ之ヲ承諾セサル可カラス但シ正當ノ原由アリテ之ヲ辭スル場合ハ此限ニ非ス而シテ邑中若シ後見人タル可キ人ノ在ラサル時ハ單純ノ住民ヲ以テ後見人ト爲スヲ得可シ

第二百四十六條　管轄廳ヨリ命セラレタル後見ノ職ヲ免ル、適法ノ原由ハ左ノ如シ

第一　小議會ノ役員、政府ノ書記官及ヒ僧侶

第二　三個ノ後見職、裁判所ヨリ任スル三個ノ補佐職或ハ此等ノ職務ノ困難ナル時ハ其職務ノ二個

第三　六十歳ノ齡又ハ他人ノ事務ヲ管理スルヲ得サル重劇ナル身體ノ殘缺

第四　孤又ハ貧人ノ大管財人ノ職務(拿破崙法典第四百二十七條第四百三十四條及ヒ第四百三十五條參看)

第二百四十七條　大法官ヨリ後見職ヲ命セラレタル者ハ定日ニ法庭ニ出頭ス可シ若シ其者大法官ノ任スル場所外ニ住スル時ハ其住所ノ大法官ニ豫メ通知ヲ爲シテ法庭ニ出頭セサル可カラス(第二百四

十二條參看)而シテ後見職ニ係ル法律ノ一部ヲ其法庭ニ差出シ此法律ノ命スル如ク其職ヲ行フ誓詞ヲ述フ可シ

第二百四十八條　後見人誓詞ヲ述ヘタル以上ハ授職書ヲ渡シ其姓名ヲ後見簿冊ニ登記ス可シ(第二百九十條及ヒ第二百九十一條參看)但シ後見人ハ此時以來法律ノ命スル職分ヲ行フニ付キ怠慢シタルニ因リ幼者ノ受ケタル損害ノ責ニ任ス可シ(第二百五十六條乃至第二百六十二條參看)

第二百四十九條　若シ後見職ヲ命セラレタル者カ正當ノ理由ヲ以テ其後見職ノ免除ヲ求メントスル時ハ誓詞ヲ述フル爲メ定リタル會席ニ於テ其理由ヲ辨明セサル可カラス但シ右ノ期限後ニ理由ノ生シタル場合ニ於テハ後見職ヲ免レンカ爲メ後日ニ之ヲ辨明スルヲ得可シ(拿破崙法典第四百三十八條參看)

第二百五十條　若シ大法官カ充分ノ理由アリト認メサル時ハ後見職ヲ命セラレタル者ハ小議會ニ上訴スルヲ得可シ然レトモ該後見人ハ訴訟中假ニ後見職ヲ行ハサル可カラス(拿破崙法典第四百四十條參看)

第二百五十一條　後見職ヲ免除セラレサル者カ之ヲ拒絶スル時ハ其拒絶中政權及ヒ凡テノ便益ヲ失フ可シ

且大法官ハ拒絶者ヨリ費用ヲ出サシメ二年間後見職ヲ行フ代理後見人ヲ命セサル可カラス

第二百五十二條　官廳ヨリ命シタル後見職ハ二年間繼續ス可シ其期限經過スレハ何人タリト雖モ後見職ヲ行フニ及ハス然レトモ後見人ハ何レノ場合ト雖モ自己ノ專權ヲ以テ後見職ヲ拋棄ス可カラス但シ免除ヲ欲スル時ハ後見ノ計算ヲ調査スル會席ニ於テ其願ヲ爲サ

ヽル可カラス(第二百八十五條參看)

第二款　後見ノ事務

第二百五十三條　後見人ハ凡テノ關係ニ於テ後見ヲ受クル者ニ注意セサル可カラス又後見ヲ受クル者ノ父ニ代リ後見官ノ監督ヲ受ケテ其教訓ヲ爲ス可シ

若シ後見ヲ受クル者ノ殘缺ト成リタル時ハ後見人ハ其者カ補助ヲ受ケ及ヒ其病情要スル所ノ注意ヲ受クルヲ監察ス可シ

若シ後見ヲ受クル者ノ浪費者タル時ハ後見人ハ正當ノ生活ヲ爲サシムル樣之ヲ誘導セサル可カラス(拿破崙法典第四百五十條參看)

第二百五十四條　後見ヲ受クル者ハ後見人ニ對シ尊敬從順ナラサル可カラス若シ從順ナラサル時ハ後見人其旨ヲ後見官ニ報知シ後見官ハ後見人ニ温和ナル强迫方ヲ用フルヿヲ許ス可シ而シテ若シ此

强迫方ノ毫モ効驗有ラサル時ハ後見官ハ其旨ヲ大法官ニ報告シ大法官ハ其處分ノ方法ヲ定ム可シ(拿破崙法典第四百六十八條參看)

第二百五十五條　後見ヲ受クル者及ヒ其父母ハ苛虐又ハ不適當ノ待遇ヲ爲ス後見人ニ對シテ後見官及ヒ大法官ニ告訴ヲ爲スノ權利アリ(拿破崙法典第四百六十八條ト相異ナリ)

第二百五十六條　後見人ハ後見ヲ受クル者ノ財產管理ニ於テ善良ナル家長カ自己ノ財產ヲ管理スルト同一ノ注意ヲ爲サヽル可カラス且後見人ハ其詐僞又ハ怠慢ヨリ生シタル損害ヲ賠償セサル可カラス(第二百十條及ヒ第二百四十八條○拿破崙法典第四百五十條參看)

第二百五十七條　後見人ハ後見ヲ受クル者ノ身體(第三十五條參看)又ハ財產ニ對シ重要ノ結果ヲ生ス可キ處置ヲ爲サヽルヲ得サルト信スル時竝ニ法律ニ記スル凡テノ場合ニ於テハ後見官ノ意見ヲ聽キ

其意見ニ從ハサル可カラス

第二百五十八條　後見官ハ其意見及ヒ其許諾ニ從ヒ後見人ノ行フ凡テノ所爲ノ責ニ任ス可シ(第二百十條參看)

第二百五十九條　後見人ハ其職ヲ受クルヤ否ヤ後見官ヲシテ其管理ス可キ財産ヲ己レニ引渡サシム可シ

是迄後見人ヲ設ケサリシ時及ヒ管轄廳其職務ヲ以テ財産ノ目錄ヲ作ラサリシ時ハ後見人後見官代理人ノ面前ニ於テ目錄ヲ作ル可シ

但シ此目錄ハ大法官ノ書記官若クハ公證人大法官ニ對シ誓詞ヲ述ヘ以テ之ヲ記ス可シ(拿破崙法典第四百五十一條參看)

若シ之ニ反シテ既ニ後見人ヲ設ケテ後見職ヲ行ヒシ時ハ新後見人ハ後見官代理人ノ面前ニ於テ舊後見人ノ最終ノ目錄ヲ調査ス可シ

第二百六十條　財産ノ目錄若クハ舊後見人ノ作リタル目錄ノ調査ハ

新後見人及ヒ凡テ職權ヲ以テ立會ヲ爲ス可キ者ヨリ之ヲ示ス可シ(第二百五十九條參看)而シテ此目錄ハ大法官ノ書記局ニ備ヘタル後見計算大簿册ニ登記シ次ニ其目錄ヲ鄭重ニ保存スル後見人ニ渡ス可シ

第二百六十一條　後見人ハ目錄ニ依リ受取リタル財産ノ責ニ任ス可シ(第二百四十八條第二百六十三條及ヒ第二百八十一條參看)

第二百六十二條　十八歲ノ齡ニ達シテ其年齡相當ノ才智アル幼者ハ其財産目錄ノ調査並ニ其事務ニ關係スル重要ノ評議ニ呼出ヲ受ケ而シテ其意見ヲ述ヘサル可カラス(第二百八十三條參看)

第二百六十三條　父タルト母タルトヲ問ハス凡テ當然ノ後見人(第二百二十五條參看)ハ其幼者ニ屬スル動産ヲ占有ス可シ但シ大法官又ハ後見官カ特別ノ理由ニ因リ他ノ方法ヲ命シタル場合ハ此限ニ非

ス且後見官ヨリ設ケラレタル後見人ニハ唯後見ヲ受クル者ノ使用ニ必要ナル財產ノ一部ヲ渡シ其餘ハ後見官ノ指揮ニ從ヒ公賣スルカ若クハ安全ノ場所ニ保存ス可シ(拿破崙法典第四百五十二條參看)

第二百六十四條　後見ヲ受クル者ニ屬スル債主權、文書若クハ證書及ヒ其他重要ナル書類並ニ自己ノ使用ノ爲メ渡ス可カラサル銀食器、寶飾及ヒ其他價アル物品ハ後見官之ヲ保存シ而シテ其責ニ任ス可シ

第二百六十五條　未タ後見ヲ受ケサル者ノ後見人ハ其職務ヲ爲シ始ムルヤ否ヤ後見ヲ受クル者ノ債主權及ヒ其金錢上ノ要求ニ付キ報告書ヲ後見官ニ出サヽル可カラス而シテ後見人ハ其報告書ニ金錢付託ノ安全ト其利益トヲ記セサル可カラス但シ後見官ハ此事ニ付キ後見人ニ其行フ可キ事柄ニ付キ差圖ヲ爲シ利息ノ額ヨリモ付託

ノ安全ナルヿヲ撰フ可シ

第二百六十六條　若シ後見ヲ受クル者カ他人ト或ル權利ノ共通ヲ爲シタル時其後見ヲ受クル者ニ損害無ク共通ヲ解キ得ル以上ハ之ヲ爲サヽル可カラス就中家長カ異婚ノ子ヲ遺留シテ死去シ其子ノ中一二人若クハ總體ニ後見人又ハ裁判所ヨリ任スル補佐人ヲ附ス可キ時ハ後見官代理人ノ面前ニ於テ遺物相續ノ分派ヲ爲サヽル可カラス

第二百六十七條　後見ヲ受クル者ニ屬スル金錢ハ概シテ之ヲ負債ノ消却ニ使用ス可シ但シ其餘ハ期限ヲ定メス最モ利益アル約定ニテ利息ヲ取リ之ヲ貸與ス可シ(第二百六十五條參看)

第二百六十八條　後見人ハ後見官ノ充分ナリト査定シタル擔保ヲ得ルニ非サレハ決シテ後見ヲ受クル者ノ金錢ヲ貸與ス可カラス若シ

後見人後見官ノ許可無ク金錢ヲ貸與シタルニ於テハ自カラ其責ニ任ス可シ

第二百六十九條　後見人ハ何レノ場合ニ於テモ自己ノ爲メ後見ヲ受クル者ノ金錢ヲ使用シ又ハ借用ノ名義ニテ之ヲ貯有スルヲ禁ス

第二百七十條　後見人ハ後見ヲ受クル者ニ屬スル元金ノ利息ヲ確收ス可シ而シテ後見人ハ豫メ許可ヲ得スシテ第三回ノ利息ヲ收取スル前ニ遲滯ノ負債者ニ對シテ訴訟ヲ爲ス可シ

第二百七十一條　後見人ハ後見官ノ許可無ク後見ヲ受クル者ノ名義ニテ爲シタル借用ノ責ニ任ス可シ但シ債主カ此借用金ハ後見ヲ受クル者ノ眞ノ利益ニ使用セシヿ及ヒ後見官カ此使用ヲ許シタルノ證ヲ呈出スル時ハ此限ニ非ス

第二百七十二條　如何ナル後見人タリト雖モ豫メ後見官ノ許可無ク後見ヲ受クル者ノ或ル權利ニ關スル訴訟ニ答辨スルヲ得ス（拿破崙法典第四百六十四條參看）後見ヲ受クル者ノ名義ニテ和解又ハ仲裁ヲ爲スニハ後見人右ノ許可ヲ要ス可シ

第二百七十三條　許可ヲ得サル後見人ト訴訟、和解又ハ仲裁ヲ爲シ始ムル者ハ此等ノ所爲ヲ廢棄スルヨリ生スル凡テノ損害ヲ償フ可シ

第二百七十四條　後見ヲ受クル者ニ屬スル不動產ハ決シテ著シキ理由無ク之ヲ讓與ス可カラス而シテ一般ノ規則ニ於テハ公賣ニ非サレハ之ヲ賣却ス可カラス

第二百七十五條　後見人ハ後見ヲ受クル者ノ爲メ明瞭ナル利益アルニ非サレハ不動產ヲ買得ス可カラス

第二百七十六條　後見ヲ受クル者ニ屬スル不動產ヲ讓與シ書入質ト

爲シ及ヒ後見ヲ受クル者ノ名義ヲ以テ有償ノ名義ニ於テ不動産ヲ獲得スル爲メニハ後見官ノ許可ヲ必要ナリトス(拿破崙法典第四百五十七條參看)

第二百七十七條　後見人カ後見ヲ受クル者ニ屬スル不動産ヲ讓與シ書入質ト爲シ又ハ後見ヲ受クル者ノ爲メニ有償ノ名義ニ於テ不動産ヲ獲得シタルニ付キ後見人ヨリ許可ヲ裁判所ニ求メタル時ハ裁判所ハ後見官ノ允許狀ヲ差出サシムル可シ但シ裁判所ハ後見人ノ之ヲ差出サヽル中ハ許可ヲ與ヘサル者トス

第二百七十八條　前二條ノ法則ハ財産ノ爭訟又ハ裁判所ニ於テ賣却ヲ爲シタルニ因リ生シタル讓與ニ適用ス可カラス

第二百七十九條　後見ヲ受クル者ノ遺物相續ヲ爲ス時ハ後見人ハ目錄相續ヲ求メサル可カラス且後見官ニ其結果ヲ示ス可シ而シテ後見官ハ遺物相續ヲ承諾シ若シハ辭却ス可キ許可ヲ後見人ニ與ヘサル可カラス(拿破崙法典第四百六十一條參看)

第二百八十條　然レトモ後見ヲ受クル者ニ事情ノ有益ナル時ハ目錄相續ニ非スシテ通常ノ遺物相續ノ承諾ヲ後見人ニ許スヿヲ得可シ

第三款　後見ノ計算ヲ爲ス事

第二百八十一條　凡テ後見人ハ少ナクトモ二年毎ニ其管理ノ計算ヲ筆記シテ之ヲ差出サヽル可カラス

前ノ計算ノ時決定シタル財産目錄又ハ景狀書ハ後ノ計算ノ基礎ト成ル可シ(第二百五十九條第二百六十一條○拿破崙法典第四百六十九條參看)

第二百八十二條　後見ノ計算書ハ後見人カ一年内ニ爲シタル出納ノ條目ヲ記シサル可カラス又凡テ後見官ノ許可ヲ得テ爲シタル出納

ハ其許可ノ日附ヲ記セサル可カラス而シテ凡テ計算書ノ目錄ハ必要ナル證據書類ニ依據セサル可カラス

計算書ハ後見ヲ受クル者ノ財產ニ關スル權利及ヒ義務ノ位置ヲ示ス所ノ表ヲ以テ之ヲ終結ス可シ而シテ後見人ハ計算書ニ其姓名ヲ手署ス可キ者トス

第二百八十三條　若シ後見ヲ受クル者十八歲ノ齡ニ達シ年齡相當ノ才智アリテ不在ナラサル時ハ後見人ハ其計算書ヲ後見官ニ呈出スルニ先チ後見ヲ受クル者ヲシテ審查ヲ爲サシムルカ爲メ其計算書ヲ後見ヲ受クル者ニ示シ而シテ計算書ノ下ニ檢印ヲ爲サシメ計算書ヲ審查シタルノ證ヲ取ル可シ且又後見官ハ計算審查ノ定日ニ後見ヲ受クル者ト其最親近ノ血屬親二名ノ立會ヲ得シカ爲メ此等ノ者ニ通知ヲ爲サヽル可カラス（第六十二條參看）

第二百八十四條　後見官ハ第二百五十六條及ヒ第二百八十二條ニ依リ記載ス可キ者及ヒ記載シタル所爲ノ有益ナルヿ並ニ計算ノ正確ナルヿノ三點ニ付キ計算書ヲ審查ス可シ亦後見官ハ後見ヲ受クル者及ヒ其血屬親ヨリ述フル所ノ意見ヲ尊ハサル可カラス而シテ審查ノ結果ハ書記官之ヲ計算ノ末尾ニ記載ス可シ

第二百八十五條　後見官カ右ノ如ク審查シタル計算ハ猶ホ之ヲ大法官ノ精算ニ付セサル可カラス精算ヲ爲スノ日ハ慣用ノ法式ニ從ヒ後見ヲ受クル者並ニ其最親近ノ血屬親ニ之ヲ報知シテ其場ニ立會ハシム可シ又大法官ハ前條ニ從ヒ後見官代理人ノ面前ニ於テ計算ヲ審查シ後見官ノ審查ヲ確定ス可シ而シテ大法官ハ後見人ニ其管理ノ勞ト後見ヲ受クル者ノ財產トニ準シテ謝金ヲ付與シ且計算ノ結果ニ從ヒ權利ノ剩餘ト後見人若クハ後見ヲ受クル者ノ負擔ス可

キ義務ノ剰餘ト定ム可シ

第二百八十六條　大法官ノ作リタル精算ノ證書ハ允許セラレタル所爲ニ付テハ後見官並ニ後見人ナシテ其義務ヲ免レシムルヲ得而シテ後見人ト後見ヲ受クル者トノ間ニ互ニ爲ス可キ拂戻ノ認メハ終審裁判ノ効力ヲ有ス但シ精算ノ證書ハ之ヲ法庭ノ簿冊ニ登記ス可シ

第二百八十七條　後見官、後見人、後見ヲ受クル者又ハ其血屬親ハ精算ニ對シテ訟求ス可キ理由アル時ハ其訟求ヲ我小議會ニ差出スヲ得可シ而シテ小議會ハ之ヲ審判ス可シ

第二百八十八條　後見人後見ヲ受クル者又ハ其血屬親ハ後見人カ其職ヲ免レタル日ヨリ十年間計算ニ錯誤アルヲ原由ト爲シ後見ノ計算ヲ審査スルノ訟求ヲ爲スヿヲ得可シ

此再審ニ於テ計算ニ對シテ出訴シタル理由ニ付テハ凡テ後見ノ計算審査及ヒ精算ニ係ル第二百八十四條乃至第二百八十七條ヲ遵守セサル可カラス(拿破崙法典第四百七十五條參看)

第二百八十九條　後見ノ計算ハ精算ヲ爲シタル後大法官書記局ニ於テ之ヲ其簿冊ニ登記シ而シテ後之ヲ後見人ニ渡ス可シ

第二百九十條　後見官ハ後見簿冊ヲ所持セサル可カラス而シテ其管轄スル後見ヲ受クル者ハ其簿冊中ニ各自ノ章ヲ有セサル可カラス但シ此簿冊ハ後見人ノ授職、後見人ノ計算及ヒ其計算ヲ精算ニ付シタル時陳述シタル理由ヲ記ス可シ

第二百九十一條　大法官ハ其書記官ナシテ右ノ如キ簿冊ヲ所持セシム可シ但シ大法官ハ直接ニ之ヲ監督ス可シ

第二百九十二條　若シ後見人カ正當ノ理由無クシテ計算ノ爲メニ定

メタル期限ヨリ三箇月内ニ其計算ヲ差出スヿヲ怠リタル時ハ後見官ハ六箇月内ニ計算ヲ差出スヿヲ催促セサル可カラス但シ後見官ハ其催促ノ責ニ任スル者トス

第二百九十三條　若シ後見人催促ヲ受ケテ此期限ヲ經過シタル時ハ後見官ハ大法官ニ其旨ヲ報告ス可シ而シテ大法官ハ三箇月内ニ計算ヲ爲ス可キノ命ヲ直ニ後見人ニ下ス可シ

第二百九十四條　後見官ハ此最終ノ期限ヲ經過スレハ後見人カ其命ヲ執行シタルヤ否ヤヲ大法官ニ報知ス可シ若シ執行セサル場合ニ於テハ大法官ハ後見人ヲ我小議會ニ告發シ而シテ小議會ハ其捕拿及ヒ其財產ノ差押ヲ命ス可シ

第二百九十五條　後見人カ計算ヲ爲スニ非サレハ捕拿及ヒ財產差押ノ免除ヲ許ス可カラス

第二百九十六條　後見人後見官ヨリ第一回ノ催促ヲ受ケテ後見ヲ受クル者ニ屬スル財產ヲ渡サヽルカ又ハ其殘リノ義務ヲ盡サヽル時ハ後見官ヨリ之ヲ大法官ニ告發ス可シ而シテ大法官ハ此告訴ヲ小議會ニ轉送ス可シ

第二百九十七條　前條ノ場合ニ於テハ小議會ハ後見人ヲ獄ニ下シ財產ヲ差押ヘ及ヒ事情ニ從ヒ怠慢若クハ不正ナル管理者トシテ之ヲ處斷スルカ爲メ管轄裁判所ニ送付スルヿヲ命ス可シ

第四款　後見ノ止息

第二百九十八條　後見官ハ左ノ條々ニ於テ終ル可シ

第一　幼者ノ二十四歲ニ至リタル時○然レトモ其年齡ニ拘ラス(第二百十三條參看)後見ヲ免レシメサル正當ノ理由アル時ハ第二百十四條以下ニ從ヒ其財產ノ管理ヲ停止ス可シ

第二　幼者ノ婚姻ヲ爲ス時

第三　幼者ノ我小議會ヨリ後見免除ヲ得タル時(第百六十五條第四項參看)

第二百九十九條　父母ノ後見ノ終ル方法ハ第百六十五條ニ記載シ而シテ丁年者ノ後見ヲ廢スル方法ハ第二百二十七條以下ニ記載セリ

第三百條　定リタル時間刑罰トシテ命シタル後見ハ其期限ノ經過スル時止息ス可シ其無限ノ時間命シタル後見ハ本人ノ要求アリタル時及ヒ大法官ト後見官ヨリ出ス所ノ證券在リテ後見ヲ付スル原由ノ止ミタルヿヲ證スル時ハ控訴裁判所後見ヲ廢止ス可シ

第三百一條　後見官ハ後見ノ終ニ於テ後見ヲ免除セラレタル人ニ其財產ヲ引渡シ其者ヲシテ後見ノ計算書ノ下ニ認メヲ記セシメ以テ之ヲ渡サヽル可カラス後見ヲ免ル、者ノ婦ナル時ハ其夫若クハ裁判所ヨリ任スル補佐人ハ其認メヲ記セサル可カラス

第三百二條　後見ノ終ニ於テハ人皆其凡テノ權利ノ所有ヲ爲シ始ム可シ(第十六條參看)然レ𪜈婚姻ヲ爲ス婦ハ其夫ノ權下ニ在ル可シ(第八十三條參看)若シ其婦婚姻セサルカ若クハ夫ノ死去又ハ離婚ニ因リ婚姻ノ解ケタル時ハ再ヒ裁判所ヨリ任スル補佐人ノ補助ヲ受ク可シ(第三百三條參看)

第三章　裁判所ヨリ任スル補佐人

第一款　裁判所ヨリ任スル通常補佐人又ハ裁判所ヨリ任スル婦ノ補佐人

第三百三條乃至第三百十二條　此等ノ條ハ千八百三十九年十二月十二日ノ法律ヲ以テ邊留奴領シユラーニ於テ之ヲ廢シ又千八百四十七年五月二十七日ノ法律ヲ以テ邊留奴邦ノ舊キ部分ニ於テ之ヲ廢

セリ

第二款　裁判所ヨリ任スル非常補佐人

第三百十三條　不在者カ其事務管理ノ爲メ代理人ヲ設ケス而シテ其者カ財産ヲ遺シ若クハ其不在中財産ノ到來スルヿ有ル時ハ其財産ヲ管理スルカ爲ノニ裁判所ヨリ任スル非常補佐人ヲ命ス可シ(第二百三十三條及ヒ第百十二條及ヒ第百十三條參看)

第三百十四條　後見官ハ前條ノ法則ヲ嚴正ニ執行スルヿニ注意ス可シ而シテ第一部第二款第一章中ニ記スル後見人ノ中立(第二百三十九條以下參看)其授職及ヒ其就職(第四百四十七條參看)ノ法則並ニ後見ノ管理及ヒ後見ノ計算ヲ記スル第二章第三章ハ不在者ノ財産ヲ管理スルヿヲ擔當スル所ノ裁判所ヨリ任スル補佐人ニ適用ス可シ

第三百十五條　後見官ハ我カ小議會ノ承諾無ク何人ニモ決シテ不在者ノ財産ヲ渡サシメサル可シ

第三百十六條　不在者ノ假相續人カ第十五條ニ記スル理由ノ一ニ因リ不在者ノ死去シタルヿヲ公告シ而シテ遺物相續ノ開始ヲ求メント欲スル時ハ證據書類ニ據リ認メタル願書ヲ不在者ノ財産ノ在ル地ノ大法官ニ差出サヽル可カラス但シ大法官ハ之ヲ我カ小議會ニ轉送ス可シ(拿破崙法典第百十五條參看)

第三百十七條　然ル時ハ大法官ハ願書ノ旨趣ヲ通知セシカ爲メ告示狀ヲ凡テノ關係人ニ差出シ且定期内ニ其故障並ニ其要求ヲ大法官ノ書記局ニ陳述セシムルカ爲メ此等ノ人ヲ呼出ス可シ而シテ亦大法官ハ財産監督ノ任有ル後見官ニ意見ヲ陳述セシメンカ爲メ假相續人ノ願書ヲ之ニ送達ス可シ

第三百十八條　告示狀ニ定メタル期限ノ經過シタル後大法官ハ假相

續人ノ願書、故障、要求及ヒ後見官ノ報告ヲ我カ小議會ニ送達ス可シ

第三百十九條　若シ告示狀期限ノ經過スル前ニ不在者生命ノ消息無キ時ハ小議會ハ相續人ト主張スル凡テノ者又ハ其二三ノ者カ不在者ノ假相續人タルノ身分ヲ證明シ得ルヤ否ヤヲ審査ス可シ然レトモ其主張者ノ權利ノ前後ヲ審判スルヿ無カル可シ若又小議會ニ於テ確定シタル權利ノ證據ヲ見出ス時ハ小議會ハ不在者ヲ死去シタル者ト推測シ而シテ遺物相續ノ開始ヲ公告ス可シ但シ第三百二十一條及ヒ第三百二十三條ニ記スル所ノ者ハ此限ニ非ス

第三百二十條　若シ不在者ノ遺物相續ニ權利アリト主張スル者ノ間ニ爭訟ノ生スル時ハ小議會ハ其主張者ヲ民事裁判所ニ送ル可シ而シテ民事裁判所ハ其審判ヲ爲ス可シ

第三百二十一條　不在者ノ遺物相續ニ權利アリト主張スル者ノ間ニ

爭訟ノ生セサル時若シハ其爭訟ノ始審裁判所ニ於テ判決セラレタル時ハ小議會ハ假相續人ヲシテ豫メ財産ノ評價ヲ爲サシメ後見官ノ監督スル不在者ノ財産ヲ假有セシムルヿヲ許ス可シ但シ他日優等ノ權利アル主張者ノ現出シタル場合ニ於テ之ヲ徴收シ得ルカ爲メニ假相續人ヲシテ充分ノ保證ヲ供ヘシムルヲ要ス(第三百二十三條○參破崙法典第百十三條參看)

第三百二十二條　若シ假相續人カ命セラレタル保證ヲ供ヘ得サル時ハ不在者ノ財産ハ後見官ノ監督ニ任ス可シ然レトモ財産ヨリ生スル入額ハ其管理ノ報謝トシテ百分ノ四ヲ扣除シ而シテ其餘ハ皆假相續人ニ渡ス可シ

第三百二十三條　若シ死去ノ推測ヲ公告セラレシ不在者ノ猶ホ生存スル時若シハ告示狀ヲ知ラサリシ人(第三百十七條參看)又ハ此告示

狀ノ出テタル時遺物相續ノ權利アルヿヲ知ラサリシ人カ他日財産ヲ假有スル人ヨリモ優等ノ權利アルヿヲ證明シ得ル時ハ此等ノ人ハ假有人ニ對シテ自己ノ權利ヲ擴張スルヲ得可シ(第三百二十一條○拿破崙法典第百三十二條參看)

第三百二十四條　然レトモ假相續人ハ自己ノ受取リタル財産ニ偶然生シタル毀損ノ責ニ任セス而シテ假相續人ハ啻ニ讓渡シタル物品ノ價直ヲ財産受取ノ際(第三百二十一條參看)爲シタル所ノ評價ニ從ヒ返還スルノ責アル而已ニシテ其所有ノ時間收取シタル所ノ入額ハ之ヲ返還スルニ及ハス(拿破崙法典第百二十七條ト相異ナリ)

第三百二十五條　夫ノ後見、父ノ後見、母ノ後見又ハ職權ヲ以テ命セラレタル後見アリト雖モ此等ノ通常後見人カ後見ヲ受クル人ノ爲メニ其職ヲ行ヒ能ハサル場合ニ於テハ(第百六十二條第二百三十三條參看)我法律ニ循ヒ此後見ヲ受クル人ノ爲メ設立ス可キ裁判所ヨリ任スル非常補佐人ハ直ニ後見ヲ要スル所ノ人若クハ後見官ノ願ニ依リテ大法官之ヲ命セサル可カラス

第三百二十六條　裁判所ヨリ任スル非常補佐人ヲ命スルノ證書ハ之ニ特別ノ名代ナルヿヲ記セサル可カラス但シ此證書ハ之ヲ保證ス可キ使吏ヨリ非常補佐人ニ渡サヽル可カラス

第三百二十七條　裁判所ヨリ任スル非常補佐人ハ申立テタル官廳若クハ命シタル官廳ニ其名代ヲ行フタル旨ヲ報告セサル可カラス(第二百三十四條參看)

第四款　邊留奴邦內ニ居住スル外國人ノ後見

第三百二十八條　我邦內ニ居住スル外國人カ後見ノ補助ヲ要スル時ハ直接ニ其旨ヲ大法官ニ申述ス可シ

第三百二十九條　若シ邊留奴邦内ニ居住スル外國人ヲ管轄スル外國ノ後見官カ此外國人ノ爲メニ自カラ後見ノ利益ヲ謀ラント欲スル時ハ我大法官ハ其後見官ニ我法律ノ許ス所ニ從ヒ補助ヲ爲サヽル可カラス

第三百三十條　若シ外國人カ其本國ノ後見官ノ補助並ニ其助言ヲ受ケサル時ハ大法官ハ其者ノ願ニ因リ後見人又ハ裁判所ヨリ任スル補佐人ヲ命ス可シ而シテ此後見人並ニ裁判所ヨリ任スル補佐人ハ管理及ヒ指揮ヲ爲シ法律ニ定メタル管理ノ報謝ヲ收取ス可シ亦各大法官ハ其管轄内ニ於テ死去シタル外國人ノ有スル財産ノ安全ニ注意ス可シ

第三百三十一條　我管轄内ノ人民ハ強テ外國人ノ後見人又ハ裁判所ヨリ任スル補佐人ノ職務ヲ承諾スルニ及ハス但シ此義務ハ唯リ我

邦内ニ住居スル外國人ノミ之ヲ命セラルヽヲ得可シ

第二部　物

前加篇　諸物相互ノ關係ノ點ヨリ觀察シタル物ノ本性（カリテー）

第三百三十二條　權利ノ目的ニシテ其權利ノ一チモ行フ能ハサル所ノ者ヲ稱シテ物ト云フ

第三百三十三條　或ル種類中ニ物ヲ排列セシムル所ノ物ノ性格及ヒ實質（バルチイ、カラクテリスチツク、エヽマフリエール）ヲ稱シテ物ノ本質（シユブスタンス、シヨウス）ト云フ

第三百三十四條　國土上ニ在ル所ノ物ハ國或ハ有形人或ハ無形人ニ屬ス可シ

第三百三十五條　國ニ屬スル物ニシテ各人ノ所有シ得ル時ハ之ヲ空虛物ト稱シ又各人ノ使用シ得ル時ハ之ヲ公同物ト稱ス但シ公同財産ハ國費若シクハ唯リ政府ノ使用ニ供スル爲メ定メタル物ヨリ組成スル者トス

第三百三十六條　此法典ノ規則ハ國ニ屬スル物及ヒ各人ニ屬スル物ニ適用ス可シ但シ國ノ財産ト有益ノ目的ヲ有シテ吾人ノ保護スル無形人ノ財産ニ必要ナル例外ノ規則ハ我政法中ニ在ル者トス(第二十七條參看)

第三百三十七條　外部ノ感官ニ因リ覺得ス可キ物ヲ稱シテ有體物ト云ヒ斯ノ如ク覺得ス可カラサル物ヲ稱シテ無體物ト云フ即チ諸權利是ナリ

第三百三十八條　物ノ本質ヲ害スルヿ無ク一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ遷轉シ得ル物ヲ稱シテ動物ト云ヒ斯ノ如ク遷轉シ得可カラサル物ヲ稱シテ不動物ト云フ

第三百三十九條　權利ハ其執行カ不動物ノ占有ニ屬スルニ非サルヨリハ動物ナリトス(第三百四十四條參看)但シ債主權ハ其不動物ニ因リ確定セラレタル時ト雖モ動物ナリトス

第三百四十條　不動物ノ附從タラサル凡テノ動物ヲ動物(メウブル)ノ名義中ニ排列シ、金錢ヲ除クノ外凡テノ動物ヲ物品(セッフエー)ノ名義中ニ排列シ、家屋ニ具備シ若シハ家屋ヲ粧飾スル爲メニ定メタル動産ヲ粧飾動物(メウブル、メウブラン)ノ名義中ニ排列シ、庖厨ノ用ニ定メタル動物ヲ厨具(ユスタンシイル)ノ名義中ニ排列シ、職工、車夫及ヒ旅店ノ其營業ノ爲メニ要スル動物及ヒ器具ヲ職具(アッチラヴィユ)ノ名義中ニ排列シ而シテ身體、寢床及ヒ食卓ノ用ニ供スルカ爲メ既ニ切斷シタル布ヲ麻布(ランジュ)ノ名義中ニ排列ス(拿破崙法典第五百三十四條及ヒ第五百三十五條參看)

第三百四十一條　使用ニ因リ消費スル物品ニシテ之ヲ他人ニ貸與スル時ハ同種類ノ物ニテ返還セサル可カラサル物ヲ稱シテ代用物(シヨウバブランジイブル)ト云ヒ使用ニ因リ消費セサル物ニシテ其現物ノ儘返還セサル可カラ

サル物ヲ稱シテ不代用物（ノンフンジイブル）ト云フ

第三百四十二條　數個ノ物ヲ併合シテ一體ト見做シ唯一箇ノ名稱ヲ以テ指示スル時ハ之ヲ稱シテ集合物ト云フ

第三百四十三條　集合物ニ附加スル分離物ハ集合物ノ權利及ヒ負荷ノ一部ヲ分取スル可ク而シテ集合物ヨリ分離シタル部分ハ其權利及ヒ負荷ノ一部ヲ分取セサル可シ

第三百四十四條　單ニ存在スル物ハ之ヲ稱シテ主物ト云ヒ啻ニ主物ノ一部トシテ存在スル物ハ之ヲ稱シテ從物ト云フ

第三百四十五條　左ノ物ハ從物タリ

第一　增加物　此名義ハ物ニ因テ生シタル所ノ物（入額）又ハ物ニ併合セラレタル所ノ物（眞ノ增加物）ヲ包含ス但シ此等ノ果實若クハ此增加物ハ物ヨリ分離セラレサルヲ要ス

第二　性質又ハ用方ニ因リ主物ノ附屬物

第三百四十六條　物ヲ保存スル爲メニ爲シタル入費ハ之ヲ稱シテ要費（ヒツセツ）ト云ヒ入額ヲ加增スル爲メニ用ヒタル入費ハ之ヲ稱シテ益費（ユヤイル）ト云ヒ而シテ物ノ使用ヲ一層快樂ナラシメンカ爲メニ供シタル入費ハ之ヲ稱シテ奢費（カプリユヅチユエール）ト云フ

第三百四十七條　物ノ價直ハ其物ヨリ得ル所ノ利益ニ從ヒ之ヲ評價セサル可カラス而シテ此價直ノ定メハ之ヲ稱シテ定價（プリイ）ト云ヒ其價ヲ定ムルニ付キ物ノ一般ノ利益ヲ目的ト爲ス時ハ之ヲ稱シテ時價（プリイクリラン）ト云フ然レトモ若シ物ニ其占有者ノ一層貴重スル特別ノ性質アル時ハ其價ヲ稱シテ癖價（プリイドプレヂレクション）ト云フ

第三百四十八條　裁判上ノ評價ハ一般ニ時價ヲ指示ス而シテ法律ノ明許スル時ニ非サレハ癖價ヲ定ムルヲ得ス

第一篇　物權

第一卷　占有

第三百四十九條●物ヲ處分スル有形ノ能力ハ之ヲ稱シテ握有ト云フ

但シ物ヲ所有トスルノ意アル時ハ之ヲ稱シテ占有ト云フ

第三百五十條　有體物ノ握有ハ其物ヲ拘拿シ以テ之ヲ得獲シ而シテ權利ノ握有ハ此等ノ權利ヲ執行シテ以テ之ヲ得獲ス

第三百五十一條　握有ヲ占有ニ變スル爲メニハ握有者ハ其眞智ヲ使用シ若クハ後見人ニ依テ代理セラレサル可カラス

第三百五十二條　他人ノ名義ニ於ケル握有者ハ他人ノ承諾無クシテ占有者ト成ルヲ得ス但シ占有者ハ有効ニ其占有權ヲ他人ニ抛與シ而シテ唯新所有者ノ名義ニ於テ物ヲ占有スルヿヲ公言スルヲ得可シ

第三百五十三條　占有カ有効ノ原由ニ基ク時即チ占有者カ其占有物ヲ自己ノ物トシテ適法ニ訟求シ及ヒ當然ノ用方ニ之ヲ使用シ得ル時占有ハ正當ナリトス而シテ此等ノ原由ハ或ハ法律或ハ確定ノ効カアル審判或ハ前占有者ノ遺贈ナリトカ

第三百五十四條　物ノ占有ヲ要求スル者ニ有効ノ原由アル時ハ其者ハ唯占有ノ權利ヲ有スルノミ而シテ若シ他人ヨリ占有ヲ爲シ始ムルヿヲ妨害セラルヽ時ハ法律上ノ方法ニ依頼セサル可カラス(第十八條參看)

第三百五十五條　占有者カ其原由ノ有効ヲ疑フ可キ理由ヲ毫モ有セサル時ハ善意ノ占有者ナリトシ其原由ノ有効ナラサルヿヲ知ル時ハ惡意ナリトス(拿破崙法典第五百五十條參看)但シ善意ノ占有者ハ或ル事情カ其原由ニ疑ヲ生セシメタル時ヨリ疑ノ全ク成立タサル時ニ至ル迄自カラ他人ノ物ノ管理人ト心得サル可カラス

第三百五十六條　凡テ現占有ハ有効ニシテ善良ナリト推測ス可シ而シテ占有者ハ强テ其原由ヲ與フルニ及ハス(第三百五十三條參看)亦善意ノ占有者タル其身分ヲ證明スルニ及ハス但シ此推測ハ占有ノ權利ニ根據スル者トス

第三百五十七條　善意ノ占有者ハ毫モ其管理ノ事務ヲ報告スルニ及ハス亦物ノ消費ヲモ報告スルニ及ハス而シテ善意ノ占有者ハ收穫ニ依テ果實ヲ所有ト爲シ及ヒ收取ニ依テ他ノ種類ノ入額ヲ所有ト爲ス可シ(拿破崙法典第五百四十九條參看)

第三百五十八條　善意ノ占有者カ其占有ヲ奪取セラレタル時ハ之ヲ奪取スル者ニ對シ訴訟ノ始リタル時ニ至ル迄物ノ爲メニ爲シタル必要有益ナル費用ノ拂戻ヲ物ノ時價ニ從テ訟求スルノ權利アリ又

善意ノ占有者ハ己レニ或ハ利益ヲ得而シテ物ノ本質ニ害ヲ受ケサルニ於テハ奢費ノ物品ヲ持去ルノ權利アリトス

第三百五十九條　惡意ノ占有者ハ物ヲ占有シ以テ奪取者ニ加ヘタル凡テノ損害ニ付テハ自カラ其責ニ任ス加之詐僞ノ罪アル時ハ其失ハシメタル利益ニ付テモ亦其責ニ任ス可シ又惡意ノ占有者ハ物ノ時價ニ從テ必要ナル費用ノ拂戻ヲ訟求シ及ヒ己レニ或ル利益ヲ得テ物ノ本質ニ害ヲ受ケサルニ於テハ其有益品若クハ奢費ノ物品ヲ持去ルヿヲ得可シ

第三百六十條　何人ト雖モ自己ノ私權ヲ以テ他人ノ占有ヲ妨害スルヲ得ス而シテ占有者ハ不正ノ妨害ニ對シ假ノ命令又ハ防禦(第三百六十二條參看)ヲ以テ己レヲ保護セラレンヿヲ裁判官ニ訟求スルノ權利アリ若シ此等ノ保護ノ足ラサル時ハ占有者ハ腕力ニ訟フルヲ

得可シ而シテ此場合ニ於テハ暴行ヲ爲シタル者ニ對シ損害ノ償ヲ訟求スルヿヲ得可シ

第三百六十一條　毀損物カ隣物ノ占有者ニ損害ヲ加ヘントスル場合ニ於テハ隣物ノ占有者ハ管轄裁判所ニ依テ定メラレタル期限内ハ凡テノ損害ノ責ニ任スルヿヲ毀損物ノ占有者ニ訟求スルヲ得可シ若シ毀損物ノ占有者カ此等ノ擔保ヲ爲サヽル時ハ隣物ノ占有者ハ毀損物ノ占有者ノ費用ヲ以テ其物ヲ修覆セシムルノ許可ヲ裁判官ニ訟求スルヿヲ得可シ

第三百六十二條　證據ノ在ラサル時ト雖モ占有者カ其占有ニ妨害ヲ受ケントスル旨ヲ申立ル時ハ裁判官ハ其占有者ニ許スニ妨害ノ禁止ヲ以テセサル可カラス而シテ妨害者ハ四[フラン]以上五十[フラン]以下ノ罰金ニ處セサル可シ

第三百六十三條　若シ此禁止ヲ確定ノ人ニ行フ時ハ使吏ヲ以テ之ヲ其人ニ通知セサル可カラス然ラサレハ土地ノ慣習ニ從ヒ公然之ヲ貼示シ及ヒ損害ヲ懼ル、場所ニ之ヲ貼示セサル可カラス但シ此場所ノ定ラサル時ハ人目ニ觸ル可キ場所ニ之ヲ貼示セサル可カラス

第三百六十四條　若シ指名セラレタル人カ禁止ニ因テ保護セラレタル占有ヲ知ラサル時ハ此指名セラレタル人ハ直ニ口頭ヲ以テ裁判所ニ上訴ヲ爲シ又ハ禁止ノ通知ヲ得タルヨリ一年內ニ禁止ノ許ヲ得タル者ヲ呼出サシメ以テ占有ヲ攻擊セサル可カラス

第三百六十五條　若シ此人カ第三百六十四條ニ記シタル期限內ニ禁止ニ對シ訟求ヲ爲サヽル時ハ禁止ノ許ヲ得タル者ニ眞ノ占有アリト認メタル者トス但シ占有又ハ所有權ニ於ケル彼レノ權利ノ訟求ハ之ヲ拋棄セサル者トス

第三百六十六條　禁止ノ許ヲ得タル者カ現時ノ占有者ト占有ノ權利ヲ爭フ時ハ禁止ハ無効ト成ル可シ但シ現時ノ占有者ハ一年內ニ禁止ヲ己レニ維持セラレンコトヲ訟求スルコトヲ得可シ

第三百六十七條　此訟求ヲ爲スカ爲メニハ現時ノ占有者ハ己レニ禁止ノ許ヲ得タル時眞ニ物ヲ占有シタルコトヲ要ス若シ現時ノ占有者カ有効ノ原由(第三百五十三條參看)ニ因リ其占有ヲ證明シ得サル時及ヒ其對手モ亦答辨ヲ爲スカ爲メ毫モ原由ヲ有セサル時ハ其占有ハ少ナクモ禁止前六箇月間繼續シタルコトヲ要ス此場合ニ於テ現時ノ占有者カ其占有ノ始末ヲ證スル時ハ其占有ニ間斷無キ者ト推測ス可シ

第三百六十八條　此禁止ノ事件ニ於テハ唯眞ノ占有ヲ思考スルノミニシテ占有ノ權利ト所有ノ權利ヲ考察スルニ及ハス

第三百六十九條　若シ禁止ノ許ヲ得タル者カ一年間妨害ニ對シテ起訴スルヿ無キ時ハ假令彼レ常ニ其占有又ハ所有ノ權利ヲ要求シ得可シト雖モ其權利ヲ抛棄シタル者ト看做ス可シ

第三百七十條　禁止ニ違反スル者ハ占有者ノ訟求ニ依リ初犯ノ時ハ裁判官之ヲ禁止中ニ指示シタル額ヲ超過シ得可カラサル罰金ニ處シ而シテ再犯ノ場合ニ於テハ二倍ノ罰金ニ處ス可シ加之犯罪者ハ第一ノ場合ニ於テハ單ナル損害ノ賠償ニ處セラレ及ヒ第二ノ場合ニ於テハ二倍ノ損害ノ賠償ニ處セラルヽヿヲ得可シ

第三百七十一條　暴行、詐術若クハ地役ノ濫用ニ依テ占有ヲ奪ハレタル占有者ハ期滿得免ト成ラサル限ハ占有ノ回復及ヒ損害ノ賠償ヲ訟求シ且其最初ノ位地ニ復シタル後ハ其對手ニ拘ラス其物件上ノ權利ヲ擴張スルヿヲ得可シ

第三百七十二條　若シ一個ノ物件カ數人ヨリ要求セラレタル時ハ握有者ハ之ヲ其名義ヲ以テ握有スル所ノ本人ニ渡シ及ヒ其旨ヲ他ノ要求者ニ報知ス可シ然レトモ若シ握有者カ確定人ノ爲メニ物件ヲ握有セサリシ時例之ハ物件ヲ見出シタル時ハ裁判官ニ之ヲ渡シ且彼レノ面前ニ關係各人ヲ送ラサル可カラス

第三百七十三條　都テ占有ノ訴訟ハ簡畧ニ審判ス可シ

第三百七十四條　有形物件ノ占有ハ左ノ三項ニ依テ終了ス可シ

第一　物件ノ滅失及ヒ再ヒ之ヲ見出スノ望無キ事

第二　好意ノ遺棄

第三　他人ノ之ヲ獲得スル事

第三百七十五條　不動產ニ係ル物權ノ占有ハ占有者カ公然他人ニ之ヲ遺棄シ若クハ不動產ノ簿冊上ヨリ公然之ヲ塗抹セシムル時滅盡

スル者トス

第三百七十六條　獲得者ヲ公然移轉セサリシ權利ノ占有ハ左ノ二項ニ依テ滅盡ス可シ

第一　占有者ニ對シ義務ヲ負フクル人カ彼レニ爲サヽル可カラサル事項ヲ拒ミ又ハ彼レノ權利ヲ以テ享有スルヿニ付キ彼レヲ妨害スル時及ヒ占有者カ其占有ニ於テ己レヲ保護セシムル爲メ法律上猶豫ノ期限間行爲セサル時但シ猶豫ノ期限ハ妨害ノ發生シ又ハ宣告ヲ拒否シタル時ヨリ始ル者トス

第二　權利ノ拋棄

第二卷　所有

第一款　所有權

第三百七十七條　所有權トハ法律ニ從ヒ物件ノ實質及ヒ果實ヲ格段隨意ニ處分スルノ權ヲ云フ(拿破崙法典第五百四十四條參看)

第三百七十八條　土地ノ所有者ノ權利ハ(第三百七十七條參看)唯其地ノ表面ニ及フノミナラス猶ホ其上下ニ及フ者トス(拿破崙法典第五百五十二條第一項參看)

第三百七十九條　所有者ハ公益ノ原由ノ爲メ吾人カ命スル時ハ充分ノ賠償ニ依テ政府ニ其權利ヲ讓渡サヽル可カラス但シ此賠償ヲ定ムルハ民事裁判所ノ管轄ナリトス(拿破崙法典第五百四十五條參看)

第三百八十條　凡ソ人ハ隣地ノ益用ニ害ヲ及サヽル樣其土地ヲ享有セサル可カラス故ニ低地ノ所有者ハ高地ヨリ流來ル自然ノ水流若シハ小川及ヒ溝渠ノ水流ヲ自己ノ土地ヨリ回避ス可カラス(拿破崙法典第六百四十條參看)

第三百八十一條　公道ニ至ル可キ徑路無キ時ハ損害ノ賠償ヲ出シテ

其隣人ニ通行ヲ要求スルヲ得可シ(拿破崙法典第六百八十二條參看)

第三百八十二條　若シ隣人ノ之ヲ拒ミ又ハ關係各人ノ路線或ハ損害ノ賠償ニ付キ同意シ能ハサル時ハ通行ヲ要求スル所有者ハ大法官ニ其旨ヲ上申スルヲ得可シ但シ大法官ハ行政裁判官トシテ行爲シ場所ヲ臨檢シ鑒定人ノ意見ヲ聽キタル後關係各人ニ諮問シ而シテ即時裁判宣告ヲ爲サヽル可カラス

第三百八十三條　大法官ハ其裁判宣告ニ於テ横截ラレタル土地ニ最モ損害ノ少ナキ徑路ヲ指示シ及ヒ該地ノ價ヲ落スニ付キ損害ノ賠償ヲ定メサル可カラス

第三百八十四條　山中ニ於テ樹木ヲ伐リ之ヲ山上ヨリ投下スルニ非サルヨリハ之ヲ負荷シ又ハ漂流スル所ノ場所ニ之ヲ運送シ能ハサル所有者ハ損害ノ賠償ヲ出シテ低地ノ所有者ニ其樹木ヲ投下ス可キ通路ヲ己レニ指示スルヿヲ訟求スルヲ得可シ

第三百八十五條　若シ低地ノ所有者カ之ヲ拒ム時若クハ彼レノ指示スル場所カ樹木ノ所有者ニ適當スト見ヘサル時ハ該所有者ハ大法官ニ其旨ヲ上申スルヿヲ得可シ但シ大法官ハ第三百八十二條及ヒ第三百八十三條ノ場合ニ於ケルカ如ク訴件ヲ審判シ及ヒ緊要ナル時ハ通行ノ場所及ヒ之ヲ使用ス可キ時期ヲ定ムル者トス而シテ大法官ハ亦樹木ニ通行ヲ與フル土地ヲ成ル可ク節約スルヿヲ注意セサル可カラス

第三百八十六條　低地ノ所有者ハ都テノ場合ニ於テ通行ヲ爲スノ前後ニ損害ノ賠償ヲ定メシメンカ爲メ樹木所有者ノ費用ニ於テ鑒定人ニ依リ場所ノ景狀ヲ證明セシムルノ權利ヲ有スル者トス

第三百八十七條　若シ關係各人カ損害ノ賠償ニ付キ同意シ能ハサル

時ハ低地ノ所有者ハ該賠償カ二個ノ鑒定ニ從ヒ裁判官ニ依テ定メラル可キヿヲ訟求スルヲ得可シ

第三百八十八條　水源ノ所有者ハ若シ其地内ニ井戸ヲ有セサル時ハ其水源ト其設定セント欲スル井戸トノ間ニ在ル土地ノ所有者ニ全ク損害ノ賠償ヲ出シテ堀割ノ通行ヲ訟求スルヿヲ得可シ而シテ此等土地ノ所有者ハ若シ水源ノ所有者カ己等ノ家屋又ハ建造物ニ害ヲ加フルヿ無ク爲シ得ル時ハ彼レニ堀割ノ線圖ヲ指示セサルヲ得ス

第三百八十九條　若シ該土地ノ所有者カ堀割ノ線圖ヲ指示スルヿヲ拒ム時若クハ彼等ノ指示シタル所ノ者カ原告所有者ニ適當スト見ヘサル時若クハ彼等カ損害ノ賠償ニ付キ同意シ能ハサル時ハ第三百八十二條及ヒ第三百八十三條ノ場合ニ於ケルカ如ク大法官之ヲ

審判ス可シ

第三百九十條　水源ノ所有者ハ若シ自己ノ企ツル土功カ二三ノ損害ヲ及ホス時ハ其堀割ニ依テ横截ラレタル土地ノ所有者ニ協議又ハ裁判官ニ依テ定メラレタル損害ノ賠償ヲ常ニ拂ハサル可カラス

第三百九十一條　所有地ノ徑路(第三百八十一條乃至第三百八十三條參看)又ハ堀割(第三百八十八條及ヒ第三百八十九條參看)ニ付テノ物權ハ第四百四十九條ニ指示セル方法ニ從ヒ獲得セラレサル可カラス

第三百九十二條　第三百八十一條乃至第三百八十九條ノ場合ニ於テハ行政訴訟ノ事項ニ付テ訴訟法第六款中ニ指示シタル規則ニ循ヒ大法官ノ裁判ヲ控訴スルヿヲ得可シ

第三百九十三條　所有權ハ唯其法律上ノ減制ニノミ屬シタル時ハ自○

由ナリトシ(第三百七十七條乃至第三百九十二條參看)而シテ第三人ノ所有地ニ物權ヲ有スル時ハ附屬ナリトス

第三百九十四條　該法典ハ「フヒエフ」(貴族ノ領地一君ニ屬スル)「サンス」(貴族ニ拂フ土地ノ爲メ)年々ノ納高及ヒ「ヂーム」(寺院或ハ貴族ニ拂フ土地ノ入頼ノ十分一ノ稅)稅ニ關スル法律ニ毫モ牴觸セス而シテ此等ノ稅ハ今日迄在リシカ如ク將來ニ於テモ牴觸ナシ保護セラルル可シ

第三百九十五條　物件ノ共有者ハ若シ人カ物件全部ヲ思考スル時ハ單ナル所有者ト看做サレ若シ反對ニ於テ人カ各人ニ戻ル可キ全體ニ係ル權利ノ一部ヲ思考スル時ハ共有者ヲ分派セラレタル所有者ナリト看做ス者トス

第三百九十六條　共有者ノ多數ハ共有物件ノ益用及ヒ管理ニ付キ處分ヲ爲シ及ヒ物件共通ヲ契約スルヲ得可シ而シテ多數ハ人ノ數ニ

從テ算計スル「無ク各人ノ部分ニ從テ算計スル者トス

第三百九十七條　物件ノ實質ニ關シ又ハ利益ヲ得ルノ方法ニ於テ眞ノ變化ニ關スル所ノ事項ニ付キ多數ニ依テ爲サレタル處分ハ少數カ財產共通ヲ解除スルヲ好ム時ハ少數ヲ結束セサル者トス然レ𪜈例之ハ契約又ハ遺囑ノ如キ少數ヲ餘儀ナクスル有効ノ決定アル時ハ此限ニ非ス

第三百九十八條　各共有者ハ物件共通ノ解除ヲ訟求スルヲ得但シ該共有者カ他ノ共有者ニ明瞭ナル損害ヲ及スニ方リ其權利ヲ使用スル時ハ他ノ共有者ハ猶豫ノ期限ヲ訟求スルヲ得可シ

一般ノ官令又ハ地方ノ習慣ヲ遵守ス可キ森「アルプ」(山脈ノ名)原野、井戸及ヒ小川ハ此處分ノ例外ナリトス

第三百九十九條　物件共通解除ノ塲合ニ於テハ都テ共有者ハ共有物

件ノ公賣ヲ促スヿヲ得可シ

第四百條　分派ニ係ル都テノ爭訟ハ費用ノ譯ニ於テ簡畧ニ審判セラル可シ而シテ裁判所ハ景狀ヲ知得シ及ヒ雙方ノ決論ヲ單ナル陳述ト看做サヽル可カラス但シ裁判所ハ其正理ニ適合スルヿヲ看出サヽル時ハ之ヲ受理セサルヿヲ得ル者トス

第四百一條　分派セラレタル物件ニ係ル第三人ノ物權ハ(第三百九十三條參看)分派ノ爲メ毫モ變化ヲ受ケサル者トス

第四百二條　何人ニ限ラス土地ノ所有者ハ隣地ノ所有者ヲシテ强テ其經界(即チ繞圍)ヲ指示セシメ又ハ最早人カ之ヲ知得セサル時ハ更ニ之ヲ指示セシムルノ權利ヲ有ス可シ(拿破崙法典第六百四十六條參看)

第四百三條　凡テ關係各人ハ繞圍若クハ經界ノ更新ニ立會ヲ爲メ召喚ヲ受ク可シ而シテ各其經界ノ廣狹ニ從テ費用ヲ分擔ス可シ(同上)

第四百四條　經界ニ付キ爭訟ノ起リタル場合ニ於テハ人ハ先ツ能ク設定セラレタル所有權ヲ思考シ次ニ占有ヲ思考ス可シ而シテ若シ占有モ亦確定ナラサル時ハ爭ハレタル地ハ土地ノ廣狹ニ準シテ雙方ノ間ニ分派セラル可シ

第四百五條　溝渠、生籬、牆壁又ハ其他所有地ノ繞圍ハ都テ接界所有者ニ屬シ且該所有者ニ依リ其經界ノ廣狹ニ從テ建設セラレ又ハ補理セラレサル可カラス但シ所有地カ共有タラサルカ若クハ接界所有者カ前條ニ掲記セルカ如ク補理ヲ分擔ス可カラサルノ證アル時ハ格別ナリトス(拿破崙法典第六百五十三條參看)

第四百六條　土地ヲ道路、公林及ヒ共有財產ヨリ分離スル繞圍ニ係ル事項ニ付テハ風習、慣例ニ依循セサル可カラス但シ習慣ノ在ラサル

時ハ土地ノ所有者ハ自費ニテ繞圍ヲ建設補理セサル可カラス

第四百七條　繞圍ヲ建設シ及ヒ補理ス可キ者ハ其解怠ニ依リ隣地ノ所有者ニ惹起スル損害ノ責ニ任シ且其賠償ヲ爲サヽル可カラス但シ損害カ他人ニ依テ故意ニ惹起セラレタル場合ハ格別ナリトス

第四百八條　土地ノ所有者カ繞圍ヲ善良ノ景狀ニ爲スヿヲ怠ル時及ヒ隣人カ之ヲ要求スル時ハ隣人ハ鑒定人ニ依テ繞圍ヲ鑒査セシメ及ヒ彼等ノ評價ヲ爲シタル後繞圍ヲ補理ス可キ者ノ費用ニ於テ善良ノ景狀ニ之ヲ爲サシムルノ允許ヲ裁判所ニ訴求スルヲ得可シ

第四百九條　物件ノ所有者ハ握有者ニ對シ其返還ヲ訴求スルヿヲ得可シ

第四百十條　訴求者ノ權利ニ等シキ有効ノ權利ヲ生スル占有者ハ保持セラル可キ者トス

第四百十一條　盜取ラレタル物件ノ事主ニ戻ラサル以上ハ何人タリトヽ雖モ該物件ニ付キ有効ノ權利ヲ有スルヲ得ス而シテ所有者ハ都テノ握有者ニ對シ之ヲ要求スルヿヲ得可シ

第四百十二條　若シ物件ヲ要求セラル可キ者カ詐術又ハ解怠ニ依テ物件ノ占有ヲ失ハシムル時ハ所有者ノ訴求ニ付キ該物件ヲ再ヒ呈出セサルヲ得ス若シ之ヲ呈出スルヿ能ハサル時ハ所有者ニ其辯價ヲ供給セサルヲ得ス(第三百四十七條參看但シ原告人カ現握有者ヲ相手取リ出訴スルヿヲ欲スル時ハ此限ニ非ス

第二款　所有權ヲ得ル事及ヒ之ヲ失フ事

第四百十三條　所有權ヲ得ルニ必要ナル條件ハ左ノ如シ

第一　權利

第二　獲得ノ方法若シハ權利ヲ有スル者カ所有權ヨリ具備セラレ

タル所ノ外部ノ所爲

第四百十四條　所有者無キ物件(第三百三十五條參看)ニ付キ之ヲ所有ト爲スノ允許ハ權利ヲ値ヒシ而シテ獲得ノ方法ハ占有ノ證書中ニ成立スル者トス(第三百五十條參看)

第四百十五條　看守無キ場所ニ於テ發見セラレ及ヒ二三ノ人ニ屬シタルノ記標アル動物ハ遺失物ト看做サレ而シテ若シ所有者カ物件ヲ見出シタル者ヨリ知得セラレタル時及ヒ所有者カ好テ其權利ヲ拋棄セサリシ時ハ該物件ノ所有者ニ返還セラレサル可カラス

第四百十六條　若シ物件ヲ見出シタル者カ所有者ヲ知得セサル時ハ十日ノ期限內ニ該物件ヲ見出シタル地ノ裁判所長ニ之ヲ呈出セサル可カラス

第四百十七條　裁判所長ハ所有者ヲ見出スヿヲ穿索セサル可カラス

若シ之ヲ穿索シ得サル時及ヒ物件ノ價二十フラン)ヲ超過スル時ハ其事件ヲ大法官ノ面前ニ送ル可シ而シテ大法官ハ所有者ヲ見出ス可キ新規ノ手段ヲ命シ且景狀ニ從ヒ見出サレタル物件ヲ看守シ以テ所有者ノ出ツルヲ待ツ可シ

第四百十八條　大法官ハ補理ヲ爲スニ付キ甚タ著シキ費用ヲ生スル所ノ物件ヲ所有者ノ爲メ最モ有益ナル方法ニ於テ返還セシムルノ權アリ

第四百十九條　物件ヲ見出シテ之ヲ知ラシメサル者ハ惡意ノ占有者ト看做サレ最早發見ノ權利ヲ要求スルヲ得ス(第四百二十四條參看)而シテ景狀ニ從ヒ罰金ニ處セラルヽカ爲メ管轄裁判所ニ召喚セラルヽヿヲ得可シ

第四百二十條　若シ發見ヲ知ラシメシ日ヨリ一年ノ期限間何人モ物

件ヲ要求セサル時ハ占有者ハ其價格丈ノ保證ヲ出シテ物件ヲ享有スルヿヲ得可シ

第四百二十一條　若シ所有者カ一年ノ期限前ニ顯出スル時ハ發見者ハ發見ノ費用及ヒ物件ノ現價ニ從ヒ必要有益ナル費用ノ償還ニ對シ又大法官ニ依テ定メラル可キ物價ノ價格ノ十分一ヲ超過シ得可カラサル發見ノ權利ノ辨濟ニ對シテ物件ヲ其所有者ニ返還セサル可カラス

第四百二十二條　久シキ以來埋藏シテ其所有者ノ知レサル金若クハ寶物ハ人之ヲ稱シテ財貨ト云フ而シテ財貨ヲ見出ス者ハ遺失物ヲ見出ス者ト同一ノ義務ヲ履行セサルヲ得ス(拿破崙法典第七百十六條第二項參看)

第四百二十三條　若シ一年ノ終ニ於テ猶ホ財貨ノ所有者ヲ知得セサル時ハ財貨ハ之ヲ發見シタル者ト之ヲ見出シタル土地ノ所有者ノ間ニ第四百二十一條ノ場合ニ於ケルカ如ク享有ニ等シキ權利ヲ以テ平等ノ部分ニ分派セラル可シ(拿破崙法典第七百十六條第一項參看)

第四百二十四條　若シ財產ヲ發見シタル者カ或ル不法ノ所爲ヲ行ヒ若クハ其發見ヲ知ラシメサル時ハ其部分ハ財貨ヲ見出シタル地ノ貧民ノ金庫ニ沒收セラル可シ而シテ罰金ニ處セラル可キ爲メ管轄裁判所ニ召喚セラレサル可カラス

第四百二十五條　物件ノ果實カ自由ノ產物タル時ハ之ヲ稱シテ天然ノ果實ト云ヒ(第三百四十五條參看)而シテ該物件ノ所有者ニ屬ス(拿破崙法典第五百四十七條參看)亦不動產ニ併合セラレタル增加物ニ付テモ同樣タリ(第三百四十五條參看)但シ此等增加物ノ所有者カ損

害ヲ惹起スルヿ無シ不動産ヨリ之ヲ分離スルヲ得テ一年ノ期限内ニ之ヲ要求スル時ハ格別ナリトス

第四百二十六條　故意若シハ其過誤ニ因テ他人ノ物件ヲ自己ノ物件ト併合シ或ハ混淆シタル者ハ自己ノ費用ニ於テ之ヲ分離シ及ヒ他人ニ蒙ラシメ得ル所ノ損害ニ付キ他人ニ其賠償ヲ爲サヽル可カラス若シ分離スル能ハサル時ハ故意ニ物件ヲ併合セラレ或ハ混淆セラレタル者ハ或ハ分派ヲ訟求スルカ或ハ其物件ノ價直ヲ己レニ拂ハシムルカ或ハ物件全部ヲ時價ニ購求スルカノ撰ミヲ有ス可シ(拿破崙法典第五百六十六條及ヒ次條參看)

第四百二十七條　若シ併合若クハ混淆カ偶然ノ効タル時ハ最モ高價ナル物件ノ所有者ハ物件全部ヲ時價ニ購求シ或ハ物件ノ價ニ準シタル分派ニ他人ヲ餘儀ナクスルノ撰ミヲ有ス可シ

第四百二十八條　他人ニ屬スル物料ヲ修覆ノ爲メニ使用シタル者ハ此等物料ノ所有者ニ己レノ使用シタル者ノ價直ヲ拂ヒ而シテ彼レニ損害ノ賠償ヲ爲サヽル可カラス(拿破崙法典第五百五十四條參看)

第四百二十九條　他人ノ物件ヲ得ルノ方法タル期滿所得ハ格段ナル權利ノ目的ナリトス

第四百三十條　既ニ所有權ノ目的タリシ物件ハ或ハ先所有者ノ意欲ニ依リ或ハ有効ノ裁判ニ依リ或ハ法律ニ依テ之ヲ獲得ス可シ而シテ獲得ノ方法ハ引渡及ヒ正當ナル占有ノ證書中ニ成立スル者トス

第四百三十一條　動產ノ引渡ハ一般ニ手ヨリ手ニ之ヲ爲サヽル可カラス然レ𪜈若シ此等動產ノ性質之ニ對抗スル時ハ引渡ハ所有權ヲ移轉スルノ意ヲ明瞭ナラシムル記標ニ依リ(例之ハ物件上ノ權利又ハ新獲得者カ物件ヲ占有シ得ル方法ヲ證明スル爲メニ認メラレタ

ル證書)或ハ所有權ノ移轉セラレタルヿヲ知ラシムル二三ノ方法ニ依テ之ヲ爲スヿヲ得可シ

第四百三十二條　動產ノ所有權ハ出格ニ左ノ場合ニ於テ現所有者ノ公告ニ依リ移轉スルヿヲ得可シ

第一　擅有者カ物件ノ獲得者ト成ル時

第二　先所有者カ獲得者ノ名義ニ於テ將來物件ヲ握有スルヿヲ公告スル時但シ此終リノ場合ニ於テ若シ物件引渡者カ家資分散ヲ爲ス時ハ其債主ハ此方法ニテ彼レノ引渡シタル物件ヲ一體ニ併合スルノ權利ヲ有ス可シ

第四百三十三條　引渡サレタル物件ハ獲得者カ之ヲ請取リタル時ニ非サレハ獲得者ノ所有ト成ルヿヲ得ス但シ獲得者カ物件ノ引渡ヲ爲スカ爲メニ物件ヲ戻シタル時所有權ノ讓渡サレタル引渡ヲ命シ及

ヒ自身ニ爲シタル時ハ格別ナリトス

第四百三十四條　不動產ノ所有權ハ便宜ナル地ノ裁判所ニ於テ關係各人ノ公告ニ依リ及ヒ獲得者ノ占有ヲ爲スニ依テ移轉ス可シ(第四百十一條參看)

第四百三十五條　若シ不動產ノ所有權カ契約書ノ効ニ依テ移轉スル時ハ雙方ノ者ハ該契約書ヲ裁判所ニ呈出シ其意義ヲ確定シ而シテ占有ノ證書ニ移ラサル可カラス

第四百三十六條　糶賣及ヒ家資分散ノ効ニ依テノ糶賣ハ前條ノ規則ノ例外タリ而シテ家資分散若シハ糶賣ノ證書ヲ請取リタル書記ハ糶賣若シハ家資分散ニ付キ既ニ記シタル證書ヲ職務ヲ以テ管轄裁判所ニ呈出セサル可カラス又裁判所ハ第一ノ審判席ニ於テ職務ヲ以テ物件ヲ獲得者ニ知ラシメサル可カラス而シテ書記及ヒ裁判所

ハ其過誤ニ依リ惹起セル延滯ノ結果ニ付キ其責ニ任ス可シ

第四百三十七條　若シ不動産ノ所有權ヲ獲得スルノ權利カ法律例之ハ正當ノ財産相續或ハ婚姻或ハ確定裁判所ノ効アル裁判言渡加之家資分散、遺贈若クハ競賣ノ事ニ付キ債主ノ順序ヲ極定スル裁判言渡ヨリ來ル時ハ獲得者ハ裁判所ニ其獲得ヲ知ラシメ而シテ己レニ占有セサル可カラス

第四百三十八條　若シ獲得者カ自己ノ權利ヲ生シ能ハスト雖モ自己若クハ其由テ以テ自己ノ權利ヲ保持スル所ノ者カ千八百三年十二月二十四日ノ敎示ノ公布前ニ不動産ヲ所有セシヿヲ證明シ得ル時ハ裁判所ハ吾人ノ定ムル所ノ時期ニ至ル迄獲得者ヲ其所有權内ニ確定セサル可カラス

第四百三十九條　此場合ニ拘ラス凡テ人ハ其由テ以テ自己ノ權利ヲ

保持スル所ノ者カ既ニ權利ヲ有セサリシ時ハ不動産ヲ占有スルヿヲ得可カラス

第四百四十條　物件占有ノ允許ハ其由テ以テ付與セラレタル所ノ權利ノ缺ヲ存在セシムル者トス

第四百四十一條　若シ裁判所カ有効ノ故障ノ原由ニ依リ及ヒ雙方ノ中一方ノ缺席ヲ爲スニ依テ占有ノ允許ヲ拒ム時ハ一方ノ者ハ調書ヲ作ラシムルニ必要ナル前以テノ書類ヲ呈出シ故障ノ除去スルニ至ル迄他ノ一方ニ對シ及ヒ第三人ニ對シテ自己ノ權利ヲ證據立ツルヿヲ得可シ

第四百四十二條　占有ノ允許ヲ受ケタル不動産獲得ノ都テノ權利ハ既ニ引證シタル敎示ニ循テ不動産所在ノ「バイヤージュ」法官ノ管轄スル土地ヲ云フノ書記局ノ簿冊ニ登記セラレサル可カラス而シテ裁判所ノ書記ハ

適宜ノ時ニ於テ證書類ヲ「バイヤー、ジュ」ノ書記ニ渡サヽル可カラス但シ該書記ハ之ヲ寫記登載セサル可カラス且此二名ノ書記ハ其懈怠ニ依テ惹起シタル損害ニ付キ其責ニ任ス可キ者トス

第四百四十三條　「バイヤー、ジュ」ノ書記ハ簿冊上ニ記寫ス可キ不動産ノ所有權引渡ノ證書ヲ請取リシ日ヨリ八日內ニ郵便ヲ以テ其旨ヲ書入質ノ債主ニ通知シ及ヒ此カ爲メ備置キタル簿冊ニ書面ヲ送付シタル先方ノ人並ニ此等ノ書類ヲ郵便局ニ投シタル日ヲ掲記セサル可カラス

第四百四十四條　特別ノ官令ハ裁判所ノ本務ト此場合ニ於ケル訴訟ノ手續トヲ規定スル者トス

第四百四十五條　所有權ハ或ハ所有者ノ意欲ニ依リ或ハ法律ノ規則ニ依リ及ヒ確定裁判ノ効ヲ有スル裁判言渡ニ依テ之ヲ失フ可シ但シ都テ所有權ノ地樂ハ占有ノ允許ヲ得ル都テノ場合ニ於テ管轄裁判所ニ之ヲ通知シ且公ケノ簿冊ニ之ヲ寫取ラサル可カラス

第三卷　地役

第四百四十六條　人カ強テ物件ノ所有者ニ或ル事物ヲ許諾シ若クハ爲サヽラシメ得ル所ノ物權ハ地役ヲ組成スル者トス

第四百四十七條　若シ各占有者カ地役ヲ要求スルノ權利ヲ有スル樣地役カ土地ノ爲メニ設定セラレタル時ハ物權ナリトシ亦彼レカ人ノ爲メニ設定セラレタル時ハ人權ナリトス

第四百四十八條　若シ人カ其使用ニ供セラレタル內部ノ記標及ヒ外部ノ記標ニ於テ地役ノ成立ヲ認ムル時ハ地役ハ外見ナリトシ亦毫モ其成立ノ外部ノ指示有ラサル時ハ無外見ナリトス

第四百四十九條　地役ノ權利ハ或ハ附從物件所有者ノ意欲ニ根據シ

或ハ裁判言渡ニ根據スル者トス

附從物件ニ付テノ物權ヲ獲得スルニ必要ナル條件ハ左ノ如シ

第一　若シ動產ナル時ハ引渡ニ依リ(第四百三十一條參看)

第二　若シ不動產ニシテ該法典ノ公布以來設定セラレタル地役ニ關スル時ハ占有ノ允許ヲ得ルニ依リ(拿破崙法典第六百三十九條參看)

第四百五十條　該法典ノ公布前期滿所得ニ依テ獲得セラレタル地役ハ保持セラル可シ

第四百五十一條　地役占有ノ允許ハ供用地ノ所有者カ此等地役ノ貯存ニ於テ占有ヲ得タル時或ハ主領地ノ所有者カ外見ノ記標ニ付テ占有ヲ得タル時之ヲ爲ス者トス(第四百四十八條參看)

第四百五十二條　不動產獲得ノ權利ヲ記載ス可キ爲メ第四百四十二條ニ於テ決定セラレタル者ハ亦地役獲得ノ權利ニ適用ス可シ

第四百五十三條　該法典ノ公布以來不動產ニ付テノ地役ハ一モ期滿得免ニ依テ獲得シ及ヒ免除セラルヽヲ得ス(拿破崙法典第七百六條ト相異ナリ)

第四百五十四條　地役ノ權利ヲ有スル者ハ供用地ニ該權利ヲ行フカ爲メ必要ナル都テノ事ヲ爲スヲ得可シ例之ハ隣地ヨリ流來ル水ヲ自己ノ地面ニ導クノ權利ヲ有スル者ハ亦樋管ヲ設置シ及ヒ其補理ヲ監察スルヲ得ルノ類是ナリ(拿破崙法典第六百九十七條參看)

第四百五十五條　地役ノ享有ニ必要ナル土功ハ主領地ノ所有者ニ依テ建設補理セラレサル可カラス然リト雖モ供用地ノ所有者モ土功ニ付キ利益ヲ得ル時ハ亦之ヲ負擔セサルヲ得ス(拿破崙法典第六百九十八條參看)

第四百五十六條　甲ノ土地ハ其地役ヲ許與シ若クハ之ヲ委棄シテ以テ乙ノ土地ニ利益ヲ得セシメ得ル丈多ク地役ヲ有シ得ル者トス

第四百五十七條　主領地ノ增加分割或ハ二三ノ變化ハ毫モ地役ヲ變換セサル者トス

第四百五十八條　確定ノ權利又ハ認定ノ習慣有ラサル時ハ地役ノ執行ハ主領地ノ需要ニ循テ規定セラレ及ヒ供用地ノ實質ニ害セサル樣限制セラルヽ者トス

第四百五十九條　甲人ハ其對人地役ヲ許與シ若クハ之ヲ委棄シテ以テ乙人ニ利益ヲ得セシメ得ル丈多ク對人地役ヲ有シ得ル者トス但シ享有ノ限制ハ前條ニ循テ定メラレサル可カラス

第四百六十條　入額所得權及ヒ使用權ハ其性質ニ依テ對人地役ナリトス

第四百六十一條　入額所得權トハ物件ノ性質ニ循テ格段ニ他人ノ物件ヲ使用スルノ權利ヲ云フ(拿破崙法典第五百七十八條參看)

第四百六十二條　使用ニ依テ消費スル物件ハ入額所得者ノ所有ト成リ入額所得者ハ已レニ入額所得ヲ擔任セサル可カラサル者ニ對シ物件ノ價直ニ付キ自カラ其責ニ任ス可シ(拿破崙法典第五百八十七條參看)但シ投置シタル元金ハ假令入額所得ノ期限間替置セラルヽ時ト雖モ使用ニ依テ消費スル物件ノ數ニ之ヲ加入ス可カラス而シテ入額所得者ハ單ニ利益ヲ訟求スルノ權利ヲ有シ又元金カ替置セラルヽ時ハ所有者ニ新規ノ投置ヲ訟求シ或ハ利息辨濟ノ爲メニ保證ヲ訟求スルノ權利ヲ有ス可シ

第四百六十三條　若シ關係各人カ入額所得ノ始メニ於テ物件ノ目錄ヲ作ルヿヲ怠リタル時ハ入額所得ノ終ニ於テ物件カ其使用ニ必要

ナル諸附屬物ト共ニ人ノ之ヲ使用シ得ル爲メニ可ナリ善良ノ景狀ニ於テ渡サレタルヿヲ推測ス可シ(拿破崙法典第六百條參看)

第四百六十四條　入額所得者ハ左ノ要件ヲ行ハサルヲ得ス

第一　物權カ書入質ト成リタル元金ヲ拂フタル時ノ外入額ヲ所得ト爲ス時間物件ニ課スル都テ對物ノ納高ヲ負擔スル事但シ入額所得者ハ單物件ノ全入額所得者ニ依テ拂ハサル可キノ利息ヲ拂ハサル可カラス(拿破崙法典第六百九條參看)

第二　物件ヲ請取リタル時ノ景狀ニ自費ヲ以テ物件ヲ補理スル事但シ物件ノ歳月ヲ經タルニ因リ又ハ意外ノ事ニ因テ止ムヲ得ス爲サレタル大修覆ハ所有者ノ負任タリ若シ懈怠ヲ爲シタル時ハ入額所得者ハ必要ナル大修覆ヲ執行セシメ且善良ノ占有者ト同樣ニ其拂戻ヲ要求スルヿヲ裁判官ニ依テ己レニ許サシムルヿヲ

得可シ(第三百五十八條○拿破崙法典第六百五條參看)

第三　物件ニ關スル所有者ノ權利ノ消滅シ及ヒ減少セサル爲メニ必要ノ豫防ヲ爲ス事及ヒ格段ニ第三人カ物件ニ付キ己レニ許ス所ノ掠奪ヲ所有者ニ報知スル事(拿破崙法典第六百十四條參看)

第四百六十五條　若シ物件ノ所有者カ入額所得ノ期限間自身ニ己レノ權利ヲ防護シ能ハサル時或ハ未タ所有者ノ決定セサル時ハ入額所得者ハ第三人ニ對シ自己ノ名義ニ於テ己レノ權利ヲ擴張セサル可カラス

第四百六十六條　入額所得者ハ入額所得ノ終ニ於テ物件ヲ其請取リシ時ノ景狀ニ於テ所有者ニ戻サヽル可カラス但シ其損壞カ意外ノ事ヨリ起リ若シハ物件カ正シキ使用ニ因テ其價直ヲ失フタル時ハ格別ナリトス此場合ニ於テハ入額所得者ハ正シキ享有ノ結果タル

價直ノ減失ノ爲メ毫モ賠償ヲ爲スニ及ハス而シテ入額所得ノ止息スル時ニ於テ根ニ依テ結ヒタル果實ハ所有者ニ屬シ所有者ハ耕作ノ費用ヲ拂戻サヽル可カラス其他物件ノ果實例之ハ元金ノ利息及ヒ家賃ハ時價ニ從テ所有者及ヒ入額所得者或ハ其代理人ノ間ニ分派セラレサル可カラス

第四百六十七條　他人ノ物件ヲ彼レノ需要ニ從ヒ若クハ或ル方法ニ於テ使用シ及ヒ其果實ヲ同シ方法ニ於テ所有ト爲スノ權利ハ之ヲ稱シテ使用權ト云フ

第四百六十八條　使用權ヲ有スル者ノ需要ハ一般ニ地役設定ノ時彼レカ有スル所ノ身分、位地及ヒ成立ニ從テ確定セラル可シ而シテ使用權ヲ有スル者ハ其權利ノ執行ヲ他人ニ讓渡スヿヲ得ス(拿破崙法典第六百三十條及ヒ第六百三十一條參看)

第四百六十九條　使用權ノ設定セラレタル物件ノ果實ノ剩餘ハ物件補理ノ爲メ必要ナル費用及ヒ負任ヲ擔荷スル所ノ所有者ニ屬ス可シ

第四百七十條　所有者ハ入額所得者及ヒ使用權ヲ有スル者カ自己ノ權利ヲ侵奪スルヿヲ恐レ得ル塲合ニ於テハ彼等ニ保證ヲ立ツルヿヲ訟求スルノ權利アリ但シ所有者カ公然此權利ヲ拋棄シタル時ハ此限ニ非ス(拿破崙法典第六百一條ト相異ナリ)

第四百七十一條　若シ入額所得者又ハ使用權ヲ有スル者カ保證ヲ立テ能ハサル時ハ彼等ハ裁判官ニ依テ指命セラレタル管理者ノ手ニ物件ヲ戻シ或ハ所有者ニ依テ彼等ノ權利ヲ買戻サシメサル可カラス(拿破崙法典第六百二條參看)

第四百七十二條　入額所得權又ハ使用權ヲ設定スル者ハ第四百六十

條乃至第四百七十一條ノ規則ヨリ異ナリタル約束ヲ爲スノ自由アリ

第四百七十三條　對物地役ハ左ノ要件ニ依テ消滅ス

第一　該地役カ設定セラレタル期限ノ滅盡スル事

第二　定期有ラサル時有權者ノ拋棄ニ依リ故障ノ繼續スル時間地役ヲ行フ能ハサルニ依リ終リニ主領地ト供用地ヲ一人ノ手ニ併合スルニ依リ（拿破崙法典第七百五條參看）

第四百七十四條　若シ有權者カ地役占有ノ允許ヲ得タル時ハ前條ニ記載シタル場合ハ消滅ノ原由ト看做サル可シ但シ消滅ハ土地ノ所有者カ裁判所ニ依テ消滅ノ理由ニ付キ調書ヲ作ラシムル時アル者トス

第四百七十五條　書記ハ對物地役消滅ノ全證書ヲ其責任ヲ以テ猶豫無シ既ニ權利ノ登記セラレタル地ノ公ケノ簿冊ニ登錄セシメサル可カラス

第四百七十六條　若シ有權者或ハ其本人カ地役占有ノ允許ヲ受ケサル時ハ供用地ノ所有者ハ期滿得免ニ依テ義務ヲ免ルヽヲ得可シ（第四百五十三條參看）

第四百七十七條　對人地役ハ左ノ要件ニ依テ消滅ス

第一　第四百七十三條及ヒ第四百七十四條ニ指示シタル方法ニ依リ

第二　有權者ノ死去スルニ依リ或ハ權利ノ設定セラレタル無形人ノ成立ノ止息スルニ依リ（拿破崙法典第六百十七條參看）

第四卷　質ノ權利（ガージュ）

第四百七十八條　若シ全ク拂ハレサル時ハ定式ニ從テ物件ヲ賣却ス

ルカ爲メ及ヒ賣價ニ付キ拂ヲ受クルカ爲メ其債主權ノ擔保ニ他人ノ物件ヲ看守スルニ付テノ債主ノ物權ハ之ヲ質ノ權利ト稱シ而シテ此權利ヲ適用スル物件若シ動產ニ關スル時ハ之ヲ質ト稱シ若シ不動產ニ關スル時ハ之ヲ書入質ト稱ス

第四百七十九條　質物ハ特別ノ方法ニ付テ指名セラレサル可カラス

第四百八十條　債主權ハ確定シタル金圓ニ依テ定メラレサル可カラス若シ彼レカ未タ定メラレサル時ハ假リニ雙方ノ者ニ依テ定メラレサル可カラス然ラサレハ控訴ノ許サレタル時控訴シ得ル所ノ裁判言渡ニ依テ定メラレサル可カラス

第四百八十一條　質ノ權利ノ證書ハ法律ノ規則或ハ決令或ハ質物所有者ノ意欲ニ根據スル者トス

第四百八十二條　法律上質ノ權利ヲ許與スル場合ハ該法典中彼等ノ場所ニ之ヲ記載ス即チ訴訟法ニ於テハ彼レカ決令ニ依テ許與セラレタル場合ヲ記載シ而シテ契約ノ卷ニ於テハ彼レカ所有者ノ意欲ニ依テ許與セラレタル場合ヲ記載セリ

第四百八十三條　質物ニ付テノ物權ハ法律或ハ雙方ノ約束ニ依テ之ヲ獲得ス可シ

第一　若シ質物カ動產ナル時ハ其引渡ニ依リ但シ該引渡ハ質物ノ價直カ百「フラン」ヲ超過セサル時ハ書類ノ證據ニ依テ證セラレサル可カラサル者トス

第二　若シ物件カ不動產ナル時ハ權利ハ左ノ要件ニ依テ設定セラル、者トス

〔イ〕貯存セラレタル權利ノ場合ニ於テハ此貯存ヲ包含スル賣渡ノ證書ニ依リ

〔ロ〕而シテ若シ質ノ權利ニ關スル時ハ質入ノ證書ニ依リ

第四百八十四條　書入質設定ノ證書ハ質置主カ物件ニ付テノ其所有權ヲ證明セサル中ハ決シテ移サレサル者トス

第四百八十五條　確定シタル不動産ニ關スル質ノ權利ヲ有スル者ハ若シ或ル故障ノ爲メ該權利カ已レニ引渡サレサル時ハ前以テ書類ヲ差出シ以テ故障ノ除却スルニ至ル迄其權利ヲ擔保スルヲ得可シ而シテ該書類ハ裁判所ニ於テ調書ヲ作ルニ供スル者トス

第四百八十六條　土地獲得ノ權利ノ登記ニ係ル第四百四十二條ハ同ク書入質設定ノ證書ニ適用ス可キ者トス(第四百八十一條參看)而シテ該證書モ亦公ケノ簿冊ニ登記セラレサル可カラス

第四百八十七條　質ノ權利ハ質物及ヒ債主權ノ元金、利息及ヒ訴訟入費ノ辨濟ニ供セラレタル未タ土地ヨリ分離セサル果實ニ及フ者トス但シ負債者ノ請求ニ依テ生シタル費用ハ此限ニ非ス

第四百八十八條　債主ハ負債者ニ對シテ其人權ヲ施行シ又ハ質物上ニ其物權ヲ執行スルヲ得可シ而シテ若シ訴訟ノ二個ノ方法中ニテ其撰擇シタル方法ニ依テ全ク辨濟ヲ受クルニ至ラサル時ハ他ノ方法ヲ使用スルヿヲ得可シ

第四百八十九條　書入質ト成リタル不動産ノ第三ノ占有者ハ辨濟ノ義務ヲ負ハサル以上ハ抛棄ニ依テ都テノ責任ヲ免ルヽヿヲ得可シ

第四百九十條　若シ糶賣ノ價直カ負債ノ辨濟ニ不足スル時ハ損失ヲ蒙リタル債主ハ買主ニ賠償ヲ爲シ賣買ノ爲メ彼レノ契約シタル諸般ノ義務ヲ免レシメ以テ糶賣ノ價直ヲ以テ不動産ヲ買取ルヿヲ得可シ

第四百九十一條　書記ハ糶賣ヨリ十四日内ニ郵便ヲ以テ買主カ貸金

ヲ知得シ能ハサル所ノ諸債主ヲ報知シ而シテ特別ノ簿冊(第四百四十三條參看)ニ其書面ヲ送付シタル所ノ人並ニ此等ノ書面ヲ郵便箱ニ投入シタル所ノ日ヲ記載セサル可カラス

第四百九十二條　賣物取戻ノ訴權ヲ執行セント欲スル債主ハ糶賣ノ日ヨリ三箇月內ニ其獲得者ヲ報知シ及ヒ賣買ノ爲メ契約シタル諸般ノ義務ニ付キ獲得者ニ賠償ヲ爲サヽル可カラス若シ損失ヲ蒙リタル債主數人アル時ハ最新ノ者ハ己レニ先スル者ニ損害ヲ賠償シ以テ賣物取戻ノ此權利ヲ使用スルヿヲ得可シ

第四百九十三條　若シ所有者ノ無キカ若クハ偶然ノ事ニ依テ最早充分ノ擔保ヲ供セサル樣質物ノ價直ヲ落シタル時ハ債主ハ擔保ノ增加ヲ訟求スルヲ得可シ而シテ若シ負債者カ三箇月內ニ擔保ノ增加ヲ命セラル、所ノ裁判言渡若クハ自己ノ義務ニ依テ之ヲ供給セサル時ハ債主ハ假令貸借期限ノ終ラサル前ト雖モ其拂戻ヲ出訴スルヿヲ得可シ(拿破崙法典第二千百三十一條參看)

第四百九十四條　若シ負債者カ債主ノ承諾無シ質物ヲ支分スル時ハ債主ハ同上ノ權利ヲ許與セラレ而シテ其通知ヲ得タル日ヨリ一年間此權利ヲ施行スルヿヲ得可シ

第四百九十五條　動產質物ノ握有者ハ其保存ノ責ニ任シ且之ヲ使用スルヿヲ禁止セラル可シ(拿破崙法典第二千七十九條參看)

第四百九十六條　質ノ權利ハ左ノ要件ニ依テ消滅ス

第一　債主ノ其權利ヲ拋棄スルニ依リ或ハ質物ノ動產ナル時質物ヲ返還スルニ依リ

第二　負債ヲ全ク消却スルニ依リ

第三　若シ質物ヲ糶賣ニ爲シ其價直ヲ以テ諸債主ニ辨償ヲ爲スニ

足ラサル時ハ元金ノ缺クル部分ニ付キ○何トナレハ獲得者ハ唯賣價ノ額ニ至ル迄其負債ノ責ニ任スレハナリ

第四　債主權ノ消滅ニ依リ若シ物件ヲ質ニ入レシ以來三十年ヲ經過シ及ヒ債主並ニ債主權ノ期限ノ知レサル時ハ質物ノ占有者ハ召喚狀ヲ以テ裁判官ニ依テ定メラル可キ猶豫ノ期限內及ヒ書記ヲシテ公ケノ簿冊上ヨリ債主權ヲ塗抹セシメ並ニ之ヲ官用新誌中ニ記入セシムルヿヲ裁判官ニ訟求セサル可カラサル期限內ニ債主權ノ消滅ニ對シテ債主ヲ呼出シ之ヲシテ確認セシムルヿヲ得可シ

第四百九十七條　債主權ノ消滅ハ其原由ノ成立ヲシ以來債主及ヒ負債者ニ對シテ其効ヲ生シ又動產ノ質ニ關スル時ハ消滅ノ原由並ニ物件ノ返還セラレタル日及ヒ不動產ノ質ニ關シテハ債主權ノ消滅

カ公ケノ簿冊ニ登記セラレタル日ヲ知ラサル所ノ第三人ニ對シテ其効ヲ生ス但シ此場合ニ於テ書記ハ若シ債主カ自身ニ爲サヽル時ハ常ニ質ノ證書ニ其印ヲ捺シ或ハ債主權ノ爲メニ拂ハレタル金額ヲ之ニ登錄セサル可カラス何トナレハ質ノ證書ニ寫取ラレサル請取書ハ第三ノ獲得者ニ對シテ無効タレハナリ

第四百九十八條　若シ質ノ權利カ消滅スル時ハ同一ノ物件ニ付キ質ヲ取リタル後ノ債主ハ債主ノ順序ニ於テ先取ノ權ヲ有スル者トス

第五卷　財產相續ノ權利

第一款　總則

第四百九十九條　死去シタル人ノ財產相續ハ其讓渡ス可キ權利及ヒ義務ノ全體ヨリ組成スル者トス

第五百條　死者ノ財產ハ可成速ニ之ニ封印ヲ爲サヽル可カラス而シ

ヲ遇タルトキ次ノ場合ニ於テ其場所ニ現在スル相續人カ其死去ヲ知リタル時ヨリ二十四時間内ニ封印ヲ爲サヽル可カラス

第一　遺囑ノ成立スル時

第二　死者ノ定リタル相續人カ凡テ現在セサル時若シハ現在スルモ未丁年ナル時

第三　相續人カ財産ノ目錄ヲ作ラント欲スル時

第四　相續人中ノ一人公然封印ヲ爲スヿヲ訟求スル時

第五百一條　何レノ場合ニ於テモ死者ノ相續人或ヒハ若シ相續人ノ知レサルカ或ハ其場所ニ不在ナル時ハ其友人其隣人及ヒ死者ヲ看護セシ人ハ直ニ封印ヲ爲スノ任アル官吏ニ死去ヲ知ラシメサルヲ得ス

第五百二條　該官吏ハ死去ノ通知ヲ得ルヤ否猶豫無シ其責任ヲ以テ死者ノ住所ニ到リ而シテ此事ニ係ル教示中ニ掲記シタル方法ニ付テ封印ヲ爲サヽル可カラス(第三百十三條參看)

第五百三條　若シ定リタル相續人中ノ一人外國ニ在ル時及ヒ代理人ヲ任セサリシ時ハ財産相續ニ於ケル彼レノ權利ヲ保護センカ爲メ彼レニ裁判所ヨリ任スル非常輔佐人ヲ命セラル可シ(第三百十三條參看)

第五百四條　若シ有權者中ノ一人二三ノ物品ヲ財産相續ヨリ脫去セラレタリシヿヲ信スル時ハ豫メ費用ノ爲メニ保證人ヲ立テヽ物品ヲ脫去シ得タル人ニ對シ表意ノ誓ヲ宣フルヿヲ得可シ

第五百五條　遺留財産ノ全部若クハ半部又ハ十分一ノ如キ全部中ノ或ル一部ヲ所有ト爲スノ權利ハ之ヲ稱シテ財産相續ノ權利ト云ヒ而シテ此權利ニ關シテ思考セラレタル死者ノ遺産ハ之ヲ稱シテ遺

留財產ト云フ

第五百六條　凡テ人ハ左ノ要件ニ依テ相續人ナリトス

第一　正當ナル相續人ノ分限ニ依リ

第二　死者ノ意欲ニ依リ

第三　若シ死者カ相續人ヲ遺留スルヿ無ク亦遺囑ヲ爲スヿ無キ時ハ法律ノ規則ニ依リ

第五百七條　死者カ何レノ場合ニ於テモ其財產相續ヨリ除却シ能ハサル所ノ人或ハ法律ニ依テ許サレタル場合ニ於テ唯明文ニ依テノミ財產相續ヨリ除却シ得ル所ノ人ヲ稱シテ正當ノ相續人ト云フ

第五百八條　死者カ約束若クハ遺囑ニ於テ自己ノ相續人ト指命シタル所ノ人ヲ稱シテ設定ノ相續人ト云フ

第五百九條　財產相續ニ關スル約束ハ許婚者、配偶者及ヒ尊屬親並ニ

彼等ノ權下ニ在ラサル私生ノ相續人ノ尊屬親ノ間ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

此等ノ約束ニ關スル規則ハ法典ノ此部分ノ第二篇中ニ之ヲ記載スル律ニ於テ財產相續ヲ爲スヿ可シ呼フ所ノ人ヲ稱シテ法律上ノ相續人ト云フ

第五百十條　若シ正當ノ相續人若クハ設定ノ相續人ノ在ラサル時法

第五百十一條　若シ死者カ唯其遺留財產ノ一部ノミヲ處分シタル時ハ其剩餘ハ其正當ノ相續人及ヒ正當ノ相續人無キニ於テハ其法律上ノ相續人ニ歸スヿ可シ(第五百七十四條及ヒ第六百十八條參看)

第五百十二條　財產相續ハ死者ノ死去シタル時財產相續ニ付キ擴張スヿ可キ二三ノ權利ヲ有スル人ノ爲メニ開始スヿ可シ而シテ此時生存スル所ノ相續人ハ自己ノ相續人ニ其權利ヲ讓渡ス者トス

第五百十三條　遺留財産ヲ受ク可キ者ハ其承諾ニ依テ相續人ト成ル者トス

第五百十四條　故ニ相續人ト成ル可キ者ハ財産相續ニ密着セル都テノ權利及ヒ都テノ義務ニ相續シ及ヒ相續人ニ依テ命セラレタル有効ノ諸條件ヲ履行セサル可カラス

第五百十五條　共ニ相續ヲ爲ス者ハ連帶シテ此等ノ義務及ヒ此等ノ條件ヲ履行セサルヲ得ス而シテ唯一人ニテ之ヲ履行シタル時ハ財産相續ニ對シテ己レノ辨濟シタル債主ノ訴權ヲ施行スルヿヲ得可シ

第二款　財産相續ノ開始

第一節　正當ノ相續人

第五百十六條　正當ノ相續人(第五百七條參看)ハ左ノ如シ

第一　若シ約束ニ依テ自己ノ權利ヲ抛棄セサリシ時ハ生存スル配偶者但シ此抛棄ハ死去ノ際婚姻ヨリ生レタル子アル時ハ無効ナリトス

第二　法律ニ依テ定メラレタル順序ニ於ケル死者ノ正當ノ卑屬親」

正當ノ相續人ノ順序ハ次ノ條々ニ之ヲ定ム

第五百十七條　若シ死者カ此婚姻若シハ前ノ婚姻ヨリ生レタル子無クシテ其配偶者ヲ遺留スル時ハ(第五百二十七條參看)此配偶者ハ正當ノ相續人ナリトス(拿破崙法典第七百六十七條參看)

第五百十八條　若シ死者カ配偶者ヲ遺留セスト雖モ數子ヲ遺留スル時ハ此等ノ子ハ正當ノ相續人ナリ但シ母ノ既ニ其子ト財産ヲ分派シタル塲合ハ格別ナリトス然ル時ハ彼等ハ唯財産分派ノ後母ノ獲得シタル者ニ付テノミ正當ノ相續人ナリトス(第五百二十條第五百

二十三條第五百二十七條第五百四十六條及ヒ第六百二十條參看)

若シ母カ異婚ノ子ヲ遺留スル時ハ終婚ノ子ハ初婚ノ子ト共ニ財産分派ニ於テ母ニ歸與セラレタル部分ヲ相續ス可シ(第五百十八條參看)然レトモ都テ子ハ最終ノ財産分派以來母ノ獲得シタル財産ヲ平等ニ相續スル者トス(第五百二十七條參看)但シ第五百二十三條ノ場合ハ格別ナリトス

第五百十九條　若シ婦カ夫ヨリ先キニ死去シ唯其夫ニ付テ設ケタル子ノミヲ遺留スル時ハ夫ハ婚姻間其婦ノ加入財産ニ付キ有セシ所ノ都テノ權利ヲ保存ス而シテ子ハ此加入財産ニ關スル所ノ者ニ付キ母ノ權利ヲ相續ス(第百五十九條參看)而シテ婦ノ貯留財産(第九十條參看)ハ其子ニ歸スル者トス(第五百二十七條參看)

若シ夫カ新婚ヲ結約スル時ハ第百六十條ハ彼レニ適用ス可シ

第五百二十條　若シ婦其夫ニ先シテ死去シ及ヒ初婚ノ子ヲ遺留スル時ハ其子ト共ニ爲シタル財産分派ニ於テ婦ノ受ケタル部分ハ夫ニ歸與ス可シ但シ財産分派以來婦カ其夫ニ加入シタル財産ニ付テハ初婚ノ子及ヒ夫ハ正當ノ相續人タリ而シテ夫ハ其一分部ヲ相續シ及ヒ初婚ノ各子ハ亦其一部ヲ相續ス可シ(第五百二十七條參看)

第五百二十一條　若シ婦カ其夫ヲ遺留シ及ヒ終婚ノ子及ヒ前婚ノ子ヲ遺留スル時ハ前婚ノ子ト共ニ爲シタル財産分派ニ於テ婦ノ受ケタル部分ハ其夫ニ歸ス可シ但シ財産分派以來婦カ其夫ニ加入シタル財産ニ付テハ前婚ノ子及ヒ夫ハ正當ノ相續人ナリ而シテ前婚ノ各子(第五百二十六條參看)ハ其一部ヲ相續シ及ヒ夫ハ終婚ノ子ノ數ニ準シテ其部分ヲ取ル可シ(第五百二十七條參看)又終婚ノ子ハ夫カ其婦ノ財産相續ニ於テ受クル所ノ財産ニ關スル者ノ爲メ第百五十

九條ニ依テ確認セラレタル權利ヲ享有ス可シ若シ夫カ新婚ヲ結約スル時ハ第百六十條ハ彼レニ適用セラル可シ

第五百二十二條　前二條ノ場合ニ於テハ母カ其身ノ使用ニ供セシ麻布、衣類及ヒ動產ハ第五百四十三條ノ規則ニ循ヒ其子ニ歸スル者トス

第五百二十三條　若シ夫カ其婦ニ先シテ死去シ唯、終婚ノ子ノミヲ遺留スル時(第五百二十七條參看)ハ其婦ハ正當ノ相續人ナリ然レ𪜈婦カ再婚スル時ハ其子ハ財產分派ヲ訟求スルヲ得可シ(第五百二十八條參看)

第五百二十四條　若シ夫カ其婦ニ先シテ死去シ及ヒ唯、初婚ノ子ノミヲ遺留スル時ハ其婦及ヒ此等ノ子ハ正當ノ相續人ナリ而シテ婦ハ其一部ヲ受ケ而シテ初婚ノ各子ハ亦其一部ヲ受ク可シ(第五百二十七條參看)

第五百二十五條　若シ夫カ其婦ニ先シテ死去シ前婚ノ子及ヒ終婚ノ子ヲ遺留スル時ハ前婚ノ子及ヒ婦ハ正當ノ相續人ナリ而シテ初婚ノ各子(第五百二十七條參看)ハ其一部ヲ受ケ及ヒ婦ハ終婚ノ子若シハ既ニ死去シタル子ノ族ニ準シテ其部分ヲ受ク可シ(第五百二十七條參看)

第五百二十六條　前條ノ場合ニ於テハ夫ノ自用ニ供シタル武器、衣服及ヒ動產ハ第五百四十三條中ニ決定シタルカ如ク子ニ屬ス可シ

第五百二十七條　第五百十七條乃至第五百二十一條及ヒ第五百二十三條乃至第五百二十五條ニ於テハ二三ノ理由ノ爲メ自身ニ相續スルヲ得サル子ノ代理人モ亦子ト了解ス可シ(第五百二十九條乃至第五百三十二條參看)